

上越市を取り巻く観光の現状（各種データ）

1. 国全体の現状	P 3 ~ 1 7
2. 新潟県及び上越市の概況	P 1 8 ~ 2 4
3. 新潟県の詳細	P 2 5 ~ 3 2
4. 上越市の詳細	P 3 3 ~ 4 2
5. 新潟県及び上越市の訪日外国人旅行者の状況	P 4 3 ~ 5 9

1. 国全体の現状

1-1 政府の取り組み

平成15年 (2003年)	1 月 4 月	小泉総理が「観光立国懇談会」を主宰 <u>ビジット・ジャパン事業開始</u> <u>観光立国懇談会報告書</u> 「住んでよし、訪れてよしの国づくり」
平成19年 (2007年)	1 月 6 月	観光立国推進基本法施行（議員立法） 観光立国推進基本計画（閣議決定）
平成20年 (2008年)	10月	観光庁発足（麻生内閣）
平成24年 (2012年)	3 月	観光立国推進基本計画改定（閣議決定）
平成25年 (2013年)	3 月 6 月	観光立国推進閣僚会議設置（安倍内閣） 「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」（観光立国推進閣僚会議決定） 「日本再興戦略 -JAPAN is BACK-」（閣議決定）
平成26年 (2014年)	6 月	「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014」（観光立国推進閣僚会議決定） 「日本再興戦略」改定2014（閣議決定）
平成27年 (2015年)	6 月	「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015」（観光立国推進閣僚会議決定） 「日本再興戦略」改定2015（閣議決定）
	11月	安倍総理が第1回「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」を開催
平成28年 (2016年)	3 月 5 月	<u>「明日の日本を支える観光ビジョン」策定</u> （明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定） 「観光ビジョン実現プログラム2016」決定（観光立国推進閣僚会議決定）
平成29年 (2017年)	3 月 5 月	観光立国推進基本計画改定（閣議決定） 「観光ビジョン実現プログラム2017」決定（観光立国推進閣僚会議決定）
平成30年 (2018年)	6 月	「観光ビジョン実現プログラム2018」決定（観光立国推進閣僚会議決定）
令和元年 (2019年)	6 月	<u>「観光ビジョン実現プログラム2019」決定</u> （観光立国推進閣僚会議決定）

1-2 明日の日本を支える観光ビジョン(概要)

課 題

■我が国の豊富で多様な観光資源を、誇りを持って磨き上げ、その価値を日本人にも外国人にも分かりやすく伝えていくことが必要。

■観光の力で、地域の雇用を生み出し、人を育て、国際競争力のある生産性の高い観光産業へと変革していくことが必要。

■CIQや宿泊施設、通信・交通・決済など、受入環境整備を早急に進めることが必要。
■高齢者や障がい者なども含めた、すべての旅行者が「旅の喜び」を実感できるような社会を築いていくことが必要。

「観光先進国」への「3つの視点」と「10の改革」

視 点 1

「観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」

- 「魅力ある公的施設」を、ひろく国民、そして世界に開放
 - ・赤坂や京都の迎賓館などを大胆に公開・開放
- 「文化財」を、「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして「活用」へ
 - ・2020年までに、文化財を核とする観光拠点を全国で200整備、わかりやすい多言語解説など1000事業を展開し、集中的に支援強化
- 「国立公園」を、世界水準の「ナショナルパーク」へ
 - ・2020年を目標に、全国5箇所の公園について民間の力も活かし、体験・活用型の空間へと集中改善
- おもな観光地で「景観計画」をつくり、美しい街並みへ
 - ・2020年を目途に、原則として全都道府県・全国の半数の市区町村で「景観計画」を策定

視 点 2

「観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に」

- 古い規制を見直し、生産性を大切にする観光産業へ
 - ・60年以上経過した規制・制度の抜本見直し、トップレベルの経営人材育成、民泊ルールの整備、宿泊業の生産性向上など、総合パッケージで推進・支援
- あたらしい市場を開拓し、長期滞在と消費拡大を同時に実現
 - ・欧州・米国・豪州や富裕層などをターゲットにしたプロモーション、戦略的なビザ緩和などを実施
 - ・MICE誘致・開催の支援体制を抜本的に改善
 - ・首都圏におけるビジネスジエットの受入環境改善
- 疲弊した温泉街や地方都市を、未来発想の経営で再生・活性化
 - ・2020年までに、世界水準DMOを全国100形成
 - ・観光地再生・活性化ファンド、規制緩和などを駆使し、民間の力を最大限活用した安定的・継続的な「観光まちづくり」を実現

視 点 3

「すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に」

- ソフトインフラを飛躍的に改善し、世界一快適な滞在を実現
 - ・世界最高水準の技術活用により、出入国審査の風景を一変
 - ・ストレスフリーな通信・交通利用環境を実現
 - ・キャッシュレス観光を実現
- 「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現
 - ・「ジャパン・レールパス」を訪日後でも購入可能化
 - ・新幹線開業やコンセッション空港運営等と連動した、観光地へのアクセス交通充実の実現
- 「働きかた」と「休みかた」を改革し、躍動感あふれる社会を実現
 - ・2020年までに、年次有給休暇取得率70%へ向上
 - ・家族が休暇をとりやすい制度の導入、休暇取得の分散化による観光需要の平準化

出典：国土交通省北陸信越運輸局セミナー資料

新たな目標への挑戦！

訪日外国人旅行者数

2020年： 4,000万人
(2015年の約2倍)※

2030年： 6,000万人
(2015年の約3倍)※

訪日外国人旅行消費額

2020年： 8兆円
(2015年の2倍超)※

2030年： 15兆円
(2015年の4倍超)※

地方部での外国人延べ宿泊者数

2020年： 7,000万人泊
(2015年の3倍弱)※

2030年： 1億3,000万人泊
(2015年の5倍超)※

外国人リピーター数

2020年： 2,400万人
(2015年の約2倍)※

2030年： 3,600万人
(2015年の約3倍)※

日本人国内旅行消費額

2020年： 21兆円
(最近5年間の平均から約5%増)※

2030年： 22兆円
(最近5年間の平均から約10%増)※

※ ()内は観光ビジョン策定時である2015年時点との比較

(参考) 安倍内閣 6年間の成果

戦略的なビザ緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワーク拡大など、大胆な「改革」を断行。

・ 訪日外国人旅行者数は、約3.7倍増の3,119万人に

(2012年) (2018年)

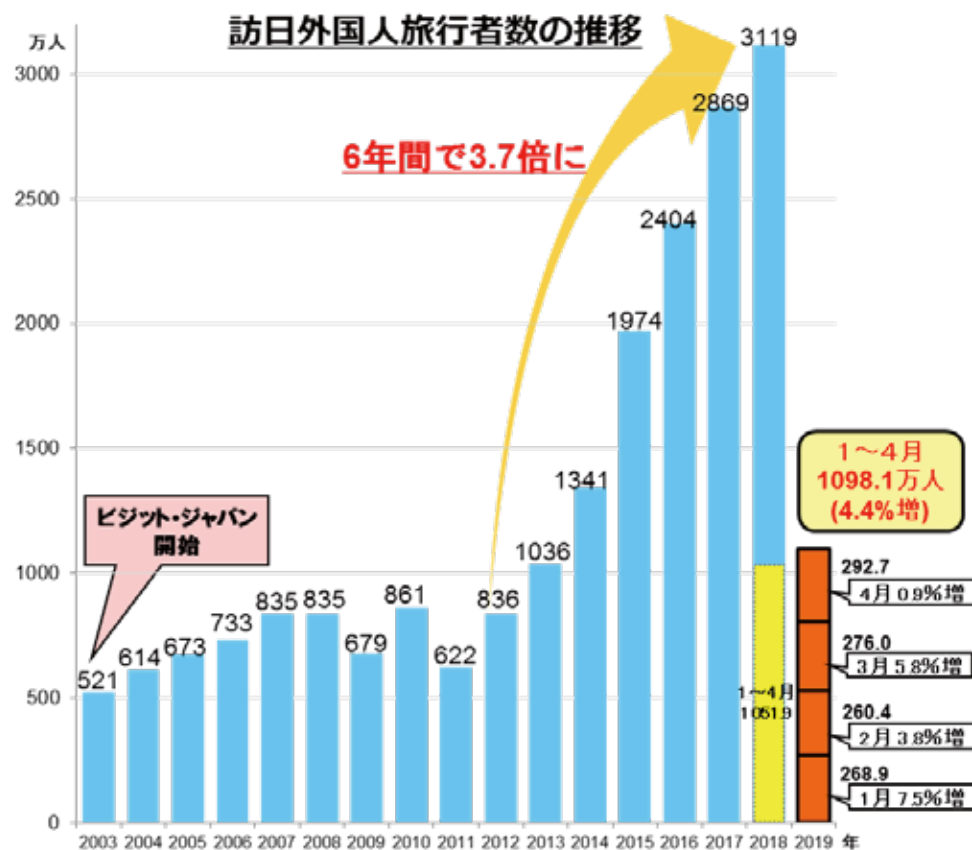
836万人 ⇒ 3,119万人

・ 訪日外国人旅行消費額は、約4.2倍増の4.5兆円に

1兆846億円 ⇒ 4兆5,189億円

1-4 訪日外国人旅行者数の推移

- 2018年（平成30年）の訪日外国人旅行者数は、3,119万人（対前年比8.7%増）と初めて3,000万人を突破し、過去最高を記録した。（外国人旅行者受入数：世界で11位、アジアで3位に相当）
- 訪日外国人旅行者数の内訳は、アジア全体で2,637万人（全体の84.5%）となった。
また、市場別では中国で800万人を、米国で150万人を、タイで100万人をそれぞれ初めて突破した。

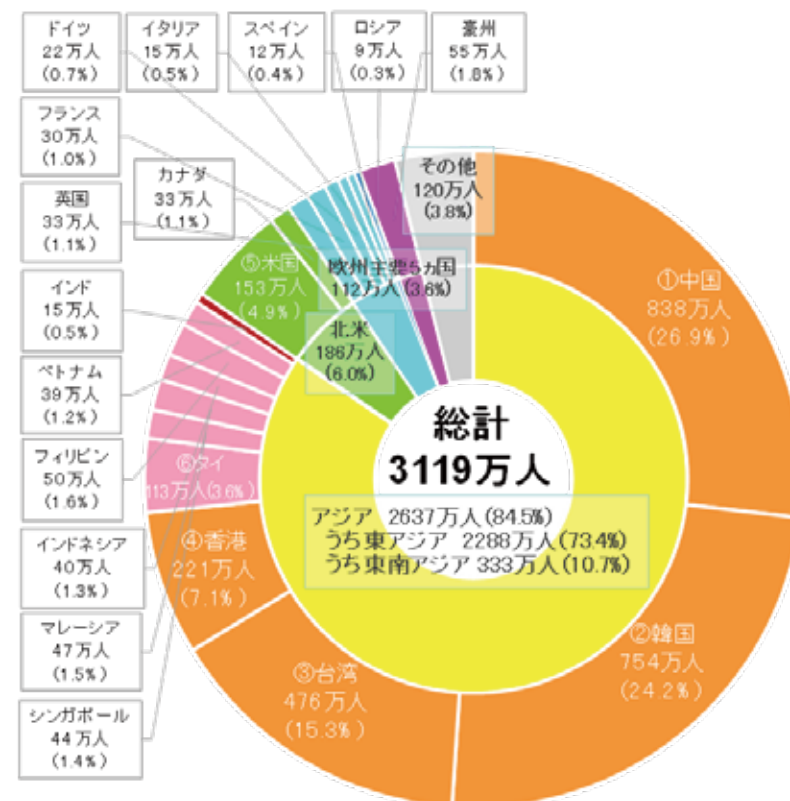


出典：日本政府観光局(JNTO)

注) 2017年以前の値は確定値、2018年、2019年1月～2月の値は暫定値、2019年3月～4月

の値は推計値、%は対前年同月比

訪日外国人旅行者数の内訳（2018年（平成30年））



資料：日本政府観光局(JNTO) 資料に基づき観光庁作成

注1：（ ）内は、訪日外国人旅行者数全体に対するシェア

注2：「その他」には、アジア、欧州等各地域の国であっても記載のない国・地域が含まれる。

出典：国土交通省北陸信越運輸局セミナー資料

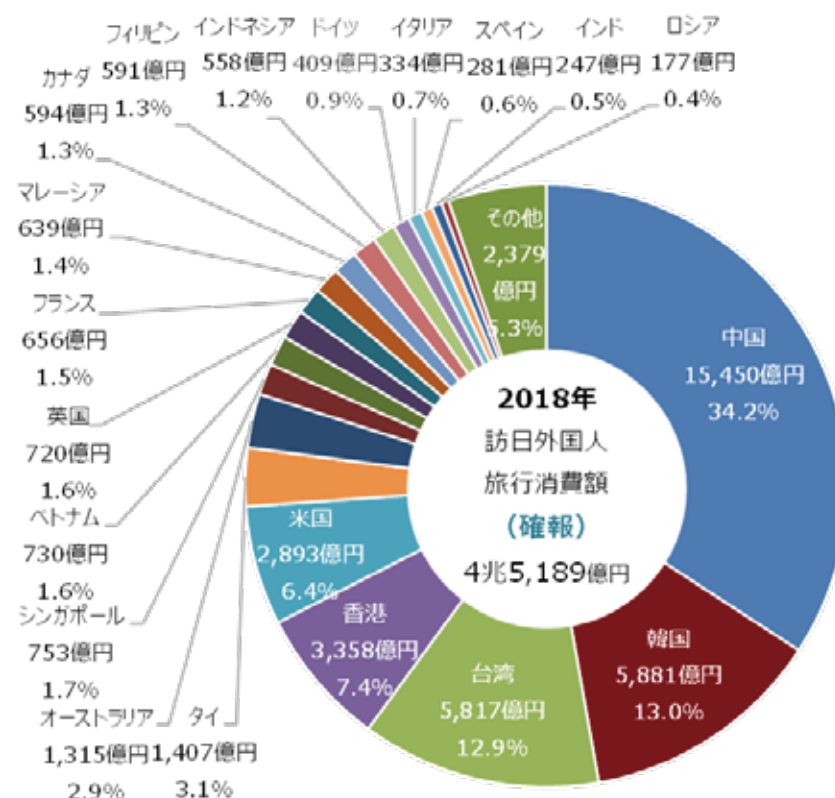
1-5 訪日外国人旅行消費額(2018年)

- 2018年の訪日外国人旅行消費額は、過去最高の4兆5,189億円。2012年（1.1兆円）以降7年連続対前年増を継続。
- 国籍・地域別に旅行消費額を見ると、中国が1兆5,450億円（構成比34.2%）と最も大きい。次いで、韓国5,881億円（同13.0%）、台湾5,817億円（同12.9%）、香港3,358億円（同7.4%）、米国2,893億円（同6.4%）の順であり、これら上位5カ国・地域で全体の73.9%を占める。

訪日外国人旅行消費額の推移

年	訪日外国人旅行消費額
2012年 (平成24年)	1兆846億円
2013年 (平成25年)	1兆4,167億円
2014年 (平成26年)	2兆278億円
2015年 (平成27年)	3兆4,771億円
2016年 (平成28年)	3兆7,476億円
2017年 (平成29年)	4兆4,162億円
2018年 (平成30年)	4兆5,189億円

国籍・地域別の訪日外国人旅行消費額と構成比



資料：訪日外国人消費動向調査（観光庁）

注1) 従来は空港を利用する旅客を中心に調査を行っていたが、短期滞在の傾向があるクルーズ客の急増を踏まえ、2018年からこうした旅客を対象とした調査も行い、調査結果に反映したところ。

従来ベースの推計方法で2018年の旅行消費額を推計すると、4兆8千億円となる。

注2) パーセンテージは、訪日外国人旅行消費額全体に対する割合。

1-6 旅行動態の変化の状況①

団体旅行(パッケージツアー)から 個人旅行(FIT)への移行

個人旅行手配の割合

2012年：60.8% 2017年：76.2% ⇒ **15.4ポイント増**

(参考) 中国 28.5% 61.8% ⇒ 33.3ポイント増
香港 70.8% 90.6% ⇒ 19.8ポイント増

スマートフォンを最大限活用した 旅行スタイルへの変化

日本滞在中に役に立った旅行情報源として スマートフォンと回答した割合(複数回答)

2012年：23.5% 2017年：69.9% ⇒ **46.4ポイント増**

都市部から地方部への観光の広がり

地方部における外国人延べ宿泊者数

2012年：855万人泊 2018年：3,636万人泊 2020年：7,000万人泊
(目標)

4.3倍

(参考) 都市部 1,776万人泊 5,223万人泊
2.9倍

リピーター数の増加

リピーター数

2012年：528万人 2018年：1,944万人 2020年：2,400万人
(目標)

3.7倍

1-7 旅行動態の変化の状況②

モノ消費からコト消費への移行

娯楽サービス費購入率

2012年：21.5% 2017年：35.7% ⇒ **14.2ポイント増**

外国人観光客の消費支出に占める 娯楽サービス費の割合

2012年：1.1% 2018年：3.8%

〔参考〕諸外国の外国人観光客の消費支出に占める娯楽サービス費の割合
アメリカ(2015)：12.2% フランス(2015)：11.1%
カナダ(2016)：10.9%

1人1回当たりの旅行支出

訪日外国人1人1回当たり旅行支出

2012年：13.0万円 2018年：15.3万円 2020年：20.0万円(※)

※2020年4,000万人、旅行消費額8兆円目標の達成のためには、1人1回当たり旅行支出20万円が必要

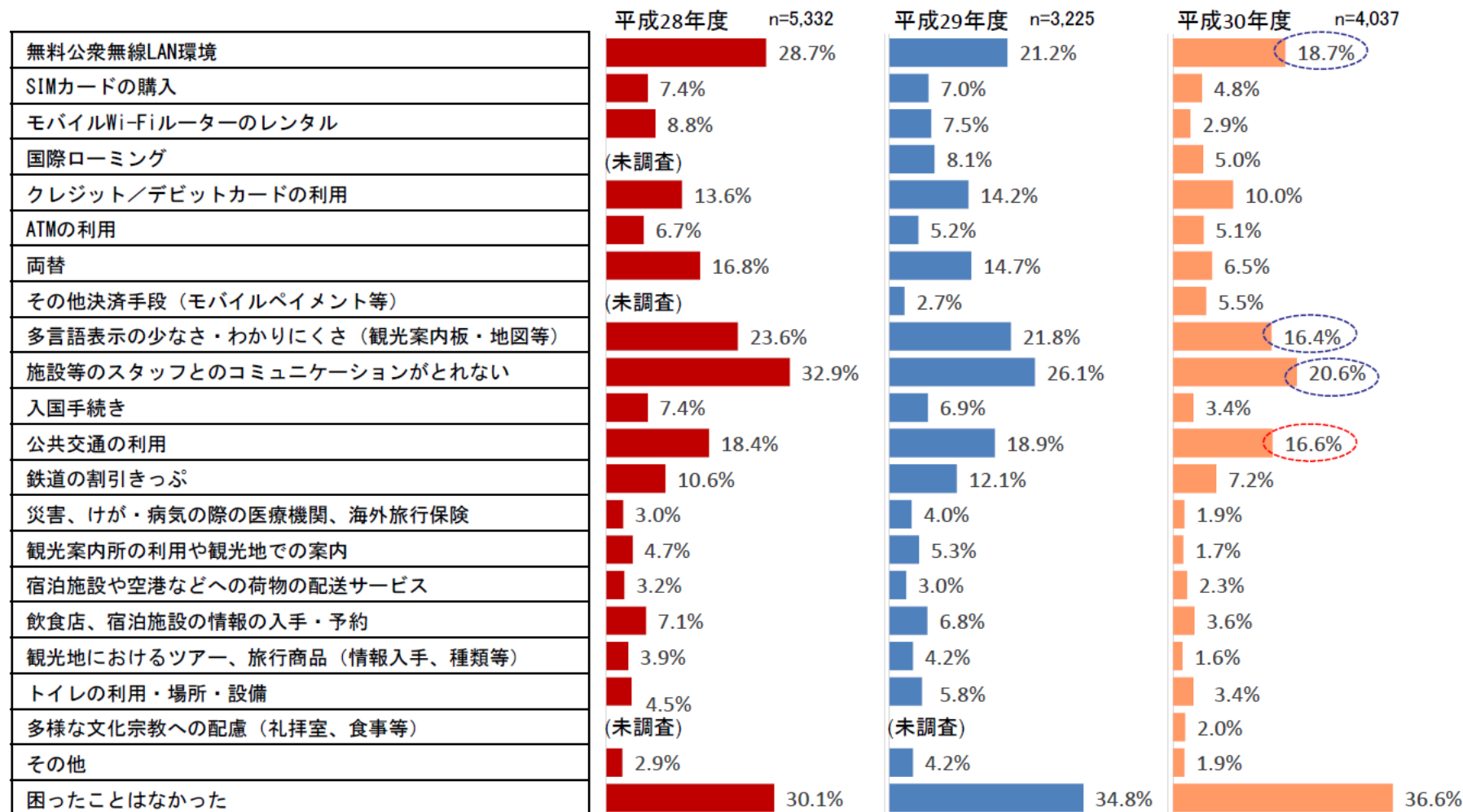
滞在日数

平均泊数

2012年：12.3泊 2018年：9.1泊

1-8 訪日旅行中に困ったことの3か年比較

- 平成30年度調査ではほぼ全ての項目で改善が見られ、「困ったことはなかった」の回答も36.6%となった。
- 「施設等のスタッフとのコミュニケーションがとれない」が最も多く20.6%となり、「無料公衆無線LAN環境」「公共交通の利用」「多言語表示の少なさ・わかりにくさ」と続いた。
- 平成29年度と30年度を比較すると、「その他決済手段」の困った比率が唯一増加した。



出典：訪日外国人旅行者の受入環境整備に関するアンケート結果（観光庁）

1-9 日本人国内延べ旅行者数、国内旅行1人1回当たりの旅行単価

- 2018年の日本人国内延べ旅行者数は5億6,178万人（前年比13.2%減）、うち宿泊旅行が2億9,105万人（前年比10.0%減）、日帰り旅行が2億7,073万人（前年比16.5%減）となった。
- 2018年の日本人国内旅行の1人1回当たり旅行単価は36,462円/人（前年比11.8%増）、宿泊の有無で見ると、宿泊旅行が54,300円/人（前年比9.2%増）、日帰り旅行が17,285円/人（前年比11.3%増）となった。

■ 日本人国内延べ旅行者数及び前年比（確報値）

単位：万人

■ 日本人国内旅行の1人1回当たりの旅行単価及び前年比（確報値）

単位：円/人

国内旅行全体						
			うち宿泊旅行		うち日帰り旅行	
	延べ旅行者数	前年比	延べ旅行者数	前年比	延べ旅行者数	前年比
2011年	61,253	-3.0%	31,356	-1.3%	29,896	-4.8%
2012年	61,275	+0.0%	31,555	+0.6%	29,720	-0.6%
2013年	63,095	+3.0%	32,042	+1.5%	31,053	+4.5%
2014年	59,522	-5.7%	29,734	-7.2%	29,788	-4.1%
2015年	60,472	+1.6%	31,299	+5.3%	29,173	-2.1%
2016年	64,108	+6.0%	32,566	+4.0%	31,542	+8.1%
2017年	64,751	+1.0%	32,333	-0.7%	32,418	+2.8%
2018年	56,178	-13.2%	29,105	-10.0%	27,073	-16.5%

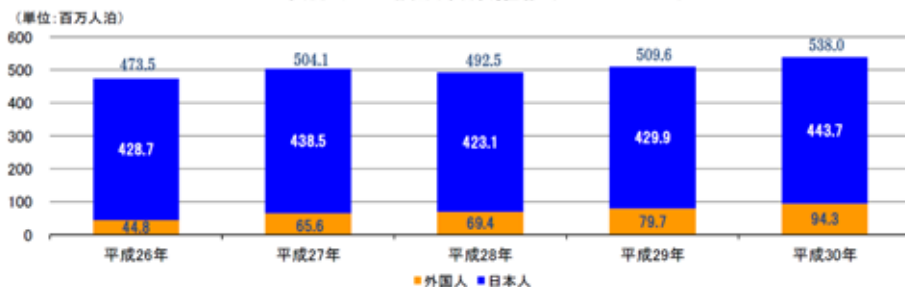
国内旅行全体						
			うち宿泊旅行		うち日帰り旅行	
	旅行単価	前年比	旅行単価	前年比	旅行単価	前年比
2011年	32,222	-0.4%	47,149	-2.6%	16,567	+2.8%
2012年	31,695	-1.6%	47,444	+0.6%	14,972	-9.6%
2013年	31,995	+0.9%	48,094	+1.4%	15,383	+2.7%
2014年	30,947	-3.3%	46,717	-2.9%	15,206	-1.2%
2015年	33,750	+9.1%	50,520	+8.1%	15,758	+3.6%
2016年	32,687	-3.2%	49,234	-2.5%	15,602	-1.0%
2017年	32,606	-0.2%	49,732	+1.0%	15,526	-0.5%
2018年	36,462	+11.8%	54,300	+9.2%	17,285	+11.3%

出典：旅行・観光消費動向調査2018年年間値（確報）（観光庁）

1-10 延べ宿泊者数および客室稼働率の推移

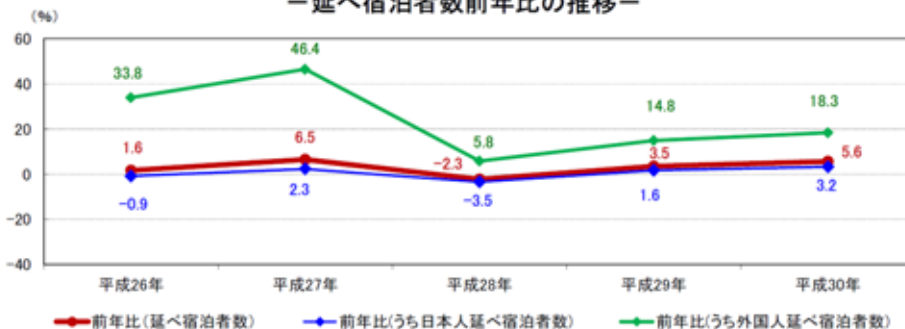
- 延べ宿泊者数（全体）は、5億3,800万人泊（前年比+5.6%）であった。日本人延べ宿泊者数は、4億4,373万人泊（前年比+3.2%）、外国人延べ宿泊者数は、9,428万人泊（前年比+18.3%）であった。
- 客室稼働率は全体で61.2%であった。施設タイプ別では、シティホテル（80.2%）、ビジネスホテル（75.5%）、リゾートホテル（58.3%）、旅館（38.8%）ともに、平成22年の調査対象拡充以降の最高値となった。

－年別・延べ宿泊者数推移（H26～H30）－

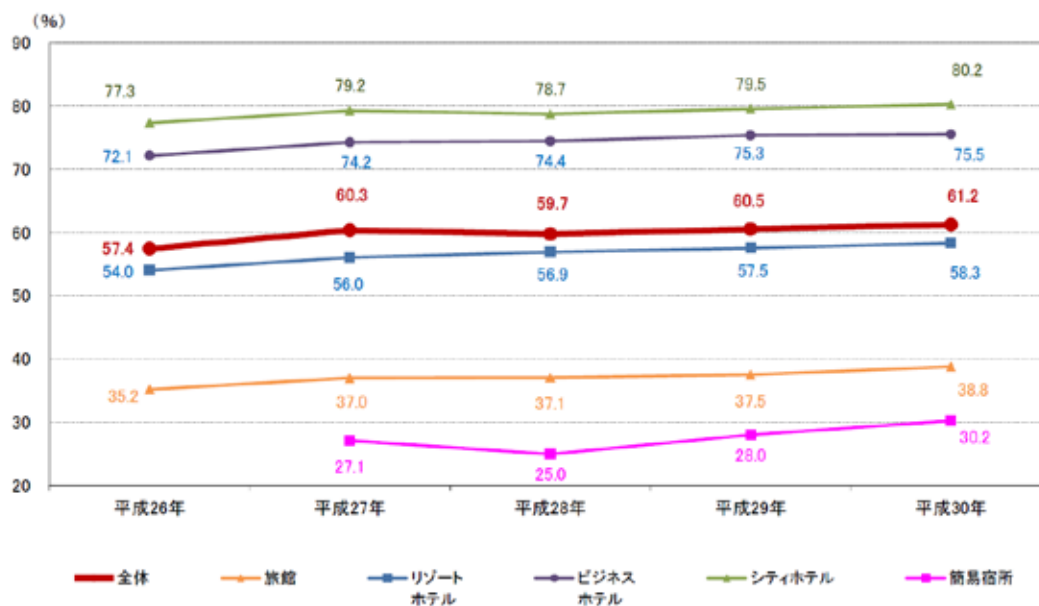


※上表の青字にした数値は、日本人及び外国人の延べ宿泊者数を合計した全体の数値である。

－延べ宿泊者数前年比の推移－



－施設タイプ別客室稼働率の推移－



出典：宿泊旅行統計調査平成30年年間値（確定値）（観光庁）

1-11 旅行形態に着目した旅行市場区分シェア(2017年)

- 旅行内容と旅行形態（団体・個人）に着目し、6つの市場区分についてのシェアを算出すると、「個人で実施する観光旅行」が最も大きなシェアを占めている。国内・海外旅行ともに、全体の約5割が「個人で実施する観光旅行」である。これに次ぐのは、国内・海外旅行ともに「出張・業務」で、その次に「帰省や家事のための旅行」となっている。
- 「個人旅行」と「団体旅行」の旅行形態別シェアについては、「国内旅行、海外旅行ともに個人旅行が約8割と、個人旅行のシェアが高い。

■ 旅行形態に着目した旅行市場区分シェア（2017年）

単位：（％）

市場区分	定義	国内旅行	海外旅行
個人で実施する観光旅行	個人で実施する観光旅行。スポーツ旅行。旅行会社のパック旅行に参加した場合も含める。	52.7	53.9
帰省や家事のための旅行	帰省や冠婚葬祭関連の旅行。（帰省ついでに行った観光旅行は観光・レクリエーション旅行）	13.9	9.6
組織が募集する団体旅行	町内、農協、郵便局、信金、宗教団体、サークルなどが募集する旅行。	5.8	8.0
出張や業務旅行	打合せや会議、視察目的の旅行。	17.0	15.3
会社がらみの団体旅行	職場旅行や招待、報奨旅行。団体で行動する旅行。	5.1	6.9
その他の旅行	上記のいずれにもあてはまらない旅行。	5.5	6.4

資料：（公財）日本交通公社「JTBF旅行実態調査」

■ 旅行形態別にみるシェア（2017年）

単位：（％）

旅行形態	市場区分	国内旅行	海外旅行
個人旅行	個人で実施する観光旅行	83.5	78.8
	帰省や家事のための旅行		
	出張や業務旅行		
団体旅行	組織が募集する団体旅行	10.9	14.8
	会社がらみの団体旅行		
その他の旅行		5.5	6.4

出典：旅行年報2018（公益財団法人日本交通公社）

資料：（公財）日本交通公社「JTBF旅行実態調査」

1-12 旅行先での交通手段

- 全体的に「自家用車」を利用した旅行の割合が高い。また、「列車」「路線バス」「タクシー・ハイヤー」などの公共交通機関を利用する割合が多い一方、「貸切バス・定期観光バス」「観光客向けの巡回バスなど」の利用割合は低い。
- 「家族旅行」「夫婦・カップル旅行」「友人旅行」「ひとり旅」の区分において、同行者やライフステージ別に見てみると、利用される交通手段がそれぞれ異なることが分かる。

■マーケットセグメント（同行者×ライフステージ）別の旅行先での主な交通手段（複数回答）

(単位: %)

旅行先での主な交通手段 マーケットセグメント	自家用車	列車	レンタカー	路線バス	タクシー・ハイヤー	飛行機	定期観光バス・貸切バスなど	観光客向けの巡回バスなど	船(フェリー、観光船、屋形船など)	レンタサイクル	その他	利用しなかった交通機関は	サンプル数
全体	36.4	28.6	13.7	12.7	9.8	8.8	7.4	4.5	3.1	1.3	1.3	7.3	(9692)
前年	35.7	29.3	12.4	12.9	8.9	8.4	7.6	4.5	2.4	1.1	1.7	8.0	(9823)
家族旅行	48.1	22.8	15.6	10.8	9.2	9.9	5.0	5.1	3.7	1.5	0.7	7.1	(2500)
乳幼児の子どもと一緒にの家族旅行(小中高生を含まない)	60.1	17.4	16.6	7.7	7.0	11.8	3.1	4.8	2.4	1.1	0.7	7.0	(513)
小中高生の子どもと一緒にの家族旅行(乳幼児連れも含む)	50.0	22.8	14.8	10.1	9.6	11.4	3.8	5.1	4.9	1.6	0.6	7.3	(1026)
18歳以上のみの家族旅行	39.8	25.6	15.8	13.3	10.0	7.2	7.3	5.2	3.0	1.6	0.9	6.9	(962)
※3世代家族旅行	48.9	22.0	21.2	10.9	12.6	14.2	5.8	7.0	5.6	3.5	0.7	7.2	(752)
夫婦・カップル旅行	43.8	22.9	14.0	9.6	9.1	7.9	6.9	4.4	2.9	1.2	1.1	6.6	(3322)
カップルでの旅行	40.2	31.7	16.9	12.4	11.3	8.2	3.6	4.2	3.3	2.0	0.3	4.7	(740)
夫婦での旅行(子どもなし)	43.9	22.6	17.7	8.7	8.0	8.3	4.5	3.5	2.9	1.7	1.4	7.0	(933)
子育て中の夫婦での旅行(末子が18歳未満)	37.6	25.7	16.0	12.1	11.3	16.6	5.0	6.3	4.3	1.6	0.0	8.9	(161)
子育て後の夫婦での旅行(末子が18歳以上)	46.1	18.4	10.1	8.5	8.5	6.7	10.4	4.8	2.5	0.5	1.4	6.9	(1488)

(単位: %)

旅行先での主な交通手段 マーケットセグメント	自家用車	列車	レンタカー	路線バス	タクシー・ハイヤー	飛行機	定期観光バス・貸切バスなど	観光客向けの巡回バスなど	船(フェリー、観光船、屋形船など)	レンタサイクル	その他	利用しなかった交通機関は	サンプル数
友人旅行	27.8	28.9	16.0	13.4	10.8	7.4	12.5	4.8	3.0	1.1	1.1	8.6	(1985)
未婚男性による友人旅行	30.5	32.9	24.6	11.7	8.7	7.8	6.7	3.8	3.7	1.9	0.4	8.7	(442)
既婚男性による友人旅行(子どもなし)	40.2	21.3	17.7	13.2	14.9	16.4	13.0	5.4	2.8	1.9	0.0	5.2	(88)
子育て中の男性による友人旅行(末子が18歳未満)	35.5	21.9	22.6	6.2	10.9	5.3	12.3	4.5	0.8	3.6	0.0	4.8	(120)
子育て後の男性による友人旅行(末子が18歳以上)	32.0	20.9	16.0	7.6	9.0	7.3	16.7	3.5	3.0	0.0	1.3	7.9	(285)
未婚女性による友人旅行	22.0	43.3	16.6	21.1	10.0	7.6	6.9	4.9	2.7	1.2	1.2	9.0	(424)
既婚女性による友人旅行(子どもなし)	28.3	27.1	13.0	11.8	14.2	9.0	6.6	2.7	0.8	0.0	1.9	10.2	(133)
子育て中の女性による友人旅行(末子が18歳未満)	24.4	36.5	25.8	17.8	29.6	3.0	2.5	4.7	0.0	0.0	0.0	4.2	(38)
子育て後の女性による友人旅行(末子が18歳以上)	23.6	19.7	5.2	13.6	11.4	5.4	23.2	7.2	4.2	0.4	1.9	10.3	(454)
ひとり旅	15.3	49.6	8.1	21.0	10.4	11.1	5.1	3.3	2.3	1.6	2.6	6.6	(1688)
男性のひとり旅	16.9	49.7	10.7	19.3	10.4	11.2	3.5	2.8	2.2	1.6	2.4	7.2	(1121)
女性のひとり旅	12.3	49.3	3.1	24.4	10.6	11.0	8.2	4.3	2.6	1.6	3.1	5.5	(568)

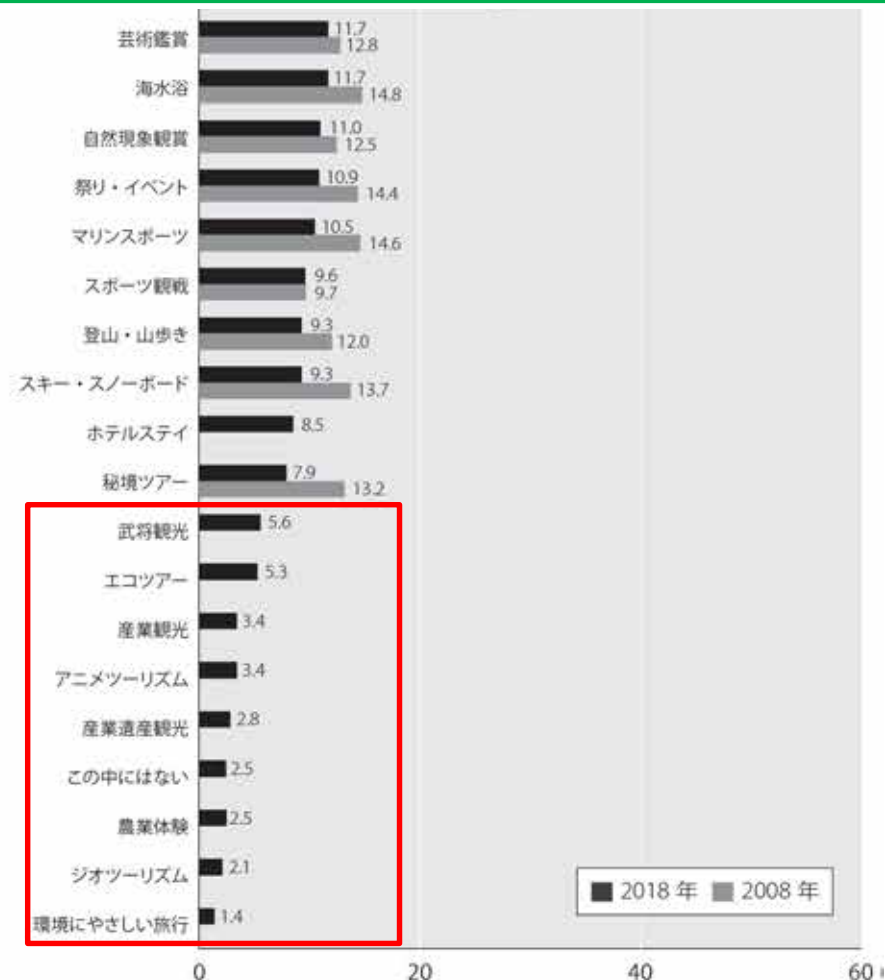
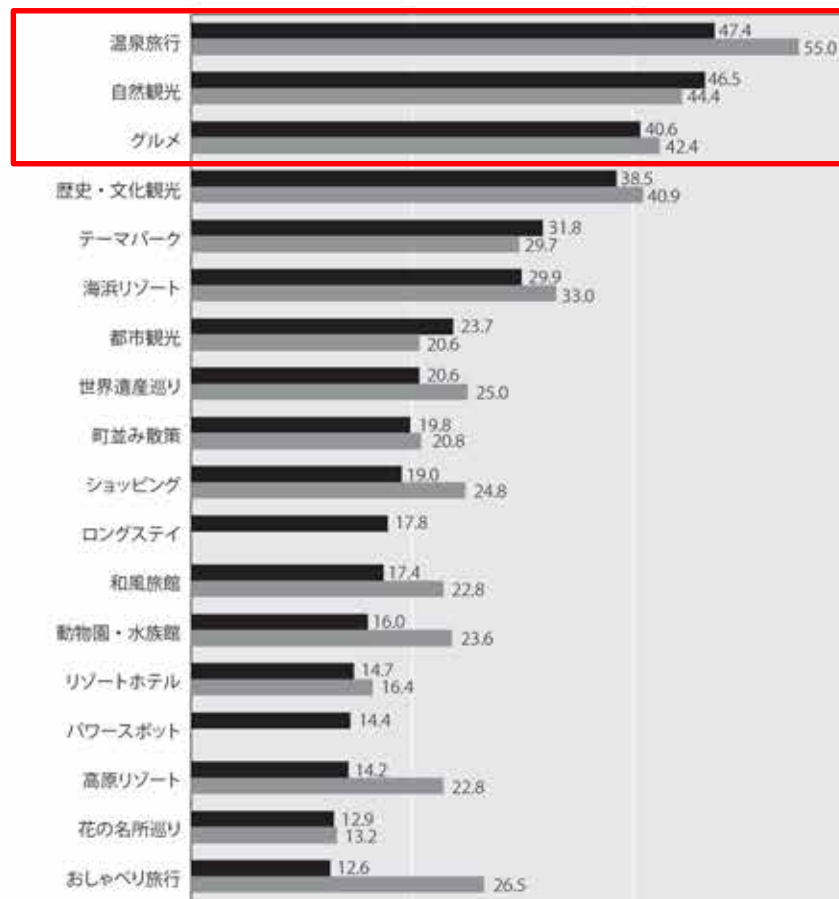
※3世代家族旅行は、子どもの年齢にかかわらず3世代で行った旅行であり、家族旅行の3セグメントと重複する。
 資料: (公財) 日本交通公社「旅行旅行実態調査」
 ①全体の比率より15ポイント以上大きい値 ②全体の比率より10ポイント以上大きい値 ③全体の比率より5ポイント以上大きい値

出典: 旅行年報2018 (公益財団法人日本交通公社)

1-13 行ってみたい旅行タイプ

- 行ってみたい旅行タイプは、「温泉旅行」を筆頭に「自然観光」「グルメ」「歴史・文化観光」の順となった。
- 2008年と2018年と比べると、「武将観光」「アニメツーリズム」「農業体験」などの新しいニーズも出てきている。

■行ってみたい旅行タイプ（複数回答）



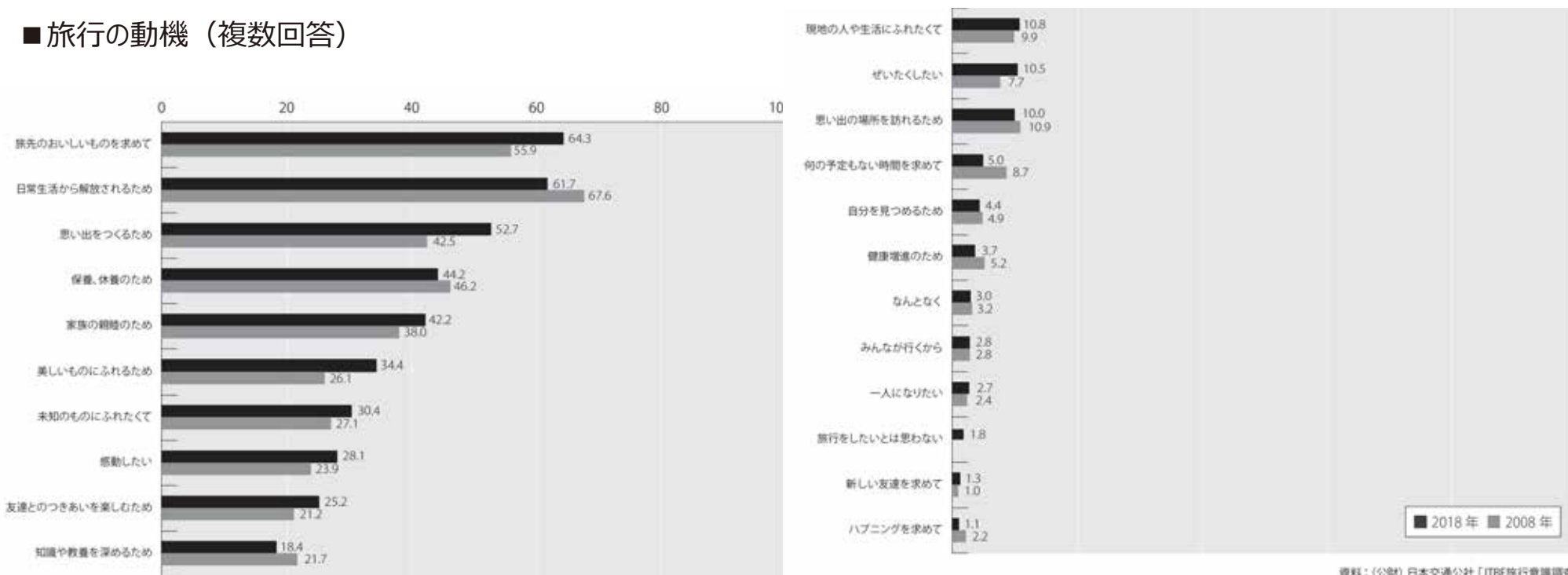
資料：（公財）日本交通公社「JTBF旅行意識調査」

出典：旅行年報2018（公益財団法人日本交通公社）

1-14 旅行の動機

- 旅行の動機は、「旅先のおいしいものを求めて」を筆頭に「日常生活から解放されるため」「思い出を作るため」「保養、休養のため」となった。
- 2008年と2018年と比べると、「日常生活から解放されるため」「保養、休養のため」のように癒しを求める理由が減少した一方で、「旅先のおいしいものを求めて」「思い出を作るため」「家族の親睦のため」などが増加した。

■ 旅行の動機（複数回答）



資料：(公財) 日本交通公社「JTB旅行意識調査」

出典：旅行年報2018（公益財団法人日本交通公社）

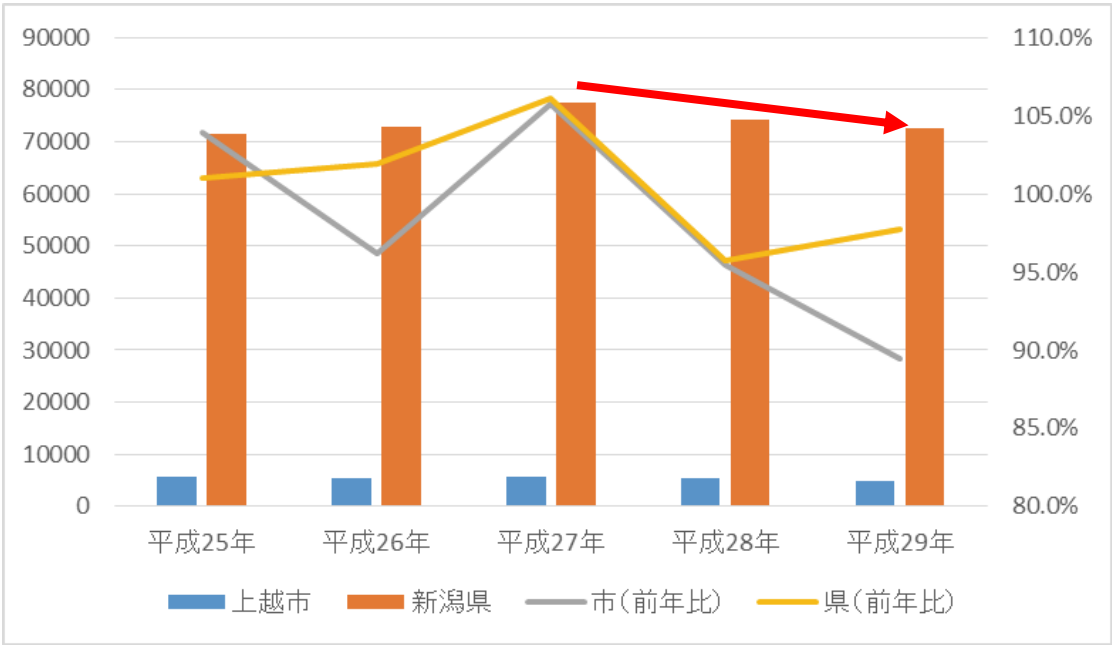
2. 新潟県及び上越市の概況

2-1 新潟県と上越市の観光入込客数(年推移)

- 過去5年間の新潟県及び上越市の入込数の推移を見ると、平成25年から平成27年は増加傾向にあったが、近年は減少傾向にある。
- 新潟県の入込数については平成27年をピークに毎年約200万人程度減少している状況である。
- 上越市の入込数は、主に水族博物館のリニューアルに伴う閉館の影響等により、大きく減少した。

■ 県との比較 年間入込客数の推移 (単位:千人)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
新潟県	71602	72987	77447	74172	72478
上越市	5687	5469	5782	5520	4939
県(前年比)	101.0%	101.9%	106.1%	95.8%	97.7%
市(前年比)	103.9%	96.2%	105.7%	95.5%	89.5%



※新潟県観光入込客統計調査を基に上越市で作成

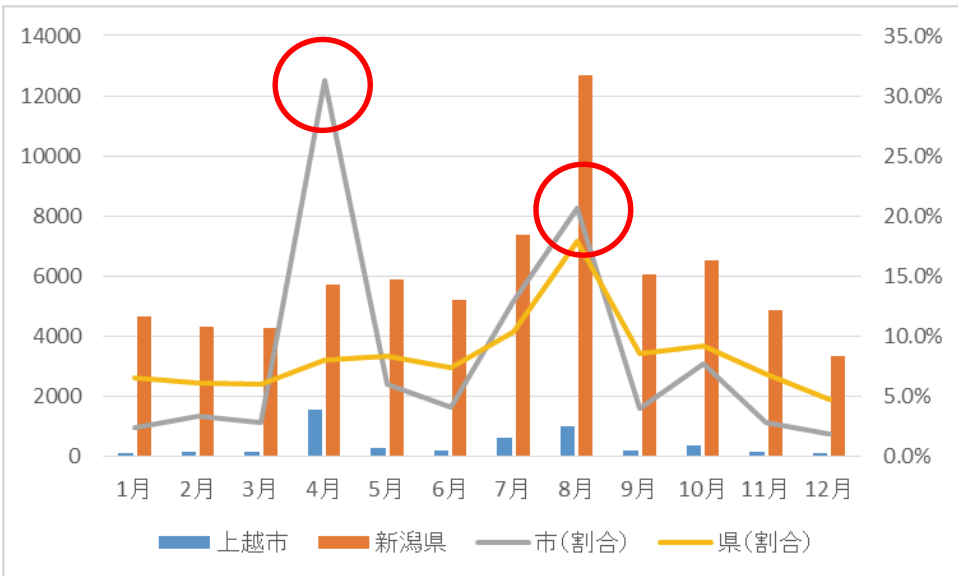
2-2 新潟県と上越市の観光入込客数(月別推移)

- 平成29年の新潟県と上越市の入込数を月別で見ると、新潟県は8月が最も入込数が多く、12,673千人（17.9%）であり、2番目に多かったのは7月で7,361千人（10.4%）であった。
- 一方、上越市は、4月の入込が最も多く1,544千人（31.3%）であり、2番目に多かったのは8月で1,021千人（20.7%）であった。
- 新潟県で一番入込数が多い8月は全体の2割ほどであり、2番目に入込数が多い7月と合わせても全体の3割弱ほどであるが、上越市で一番入込数が多い4月は全体の3割であり、2番目に入込数の多い8月と合わせると年間の入込数の約半数を占めている。

■ 県との比較 月別入込客数の推移（平成29年）

（単位：千人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
新潟県	4647	4312	4263	5715	5883	5228	7361	12673	6043	6509	4887	3340
上越市	116	165	140	1544	297	203	640	1021	195	383	140	94
県(割合)	6.6%	6.1%	6.0%	8.1%	8.3%	7.4%	10.4%	17.9%	8.5%	9.2%	6.9%	4.7%
市(割合)	2.3%	3.3%	2.8%	31.3%	6.0%	4.1%	13.0%	20.7%	3.9%	7.8%	2.8%	1.9%



※新潟県観光入込客統計調査を基に
上越市で作成

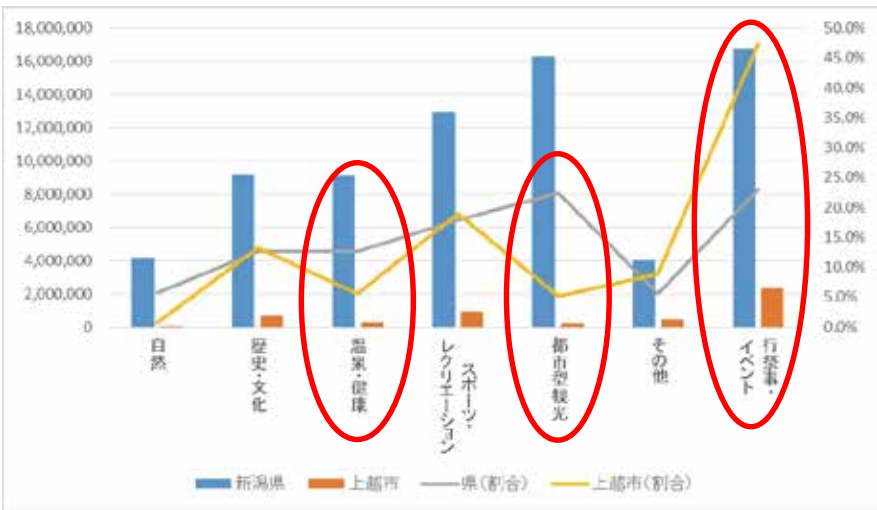
2-3 上越市と新潟県の観光入込客数(目的別)

- 平成29年の入込数を目的別に見ると、新潟県、上越市共に「行祭事・イベント」が最も多く、新潟県は16,718千人（23.1%）、上越市は2,338千人（47.3%）であった。
- 新潟県では、「都市型観光」※が2番目に多く、16,299千人（22.5%）であり、次いで「スポーツ・レクリエーション」が多く、12,945千人（17.9%）であった。
- 上越市では、「スポーツ・レクリエーション」が2番目に多く、938千人（19.0%）であり、次いで「歴史・文化」が多く、653千人（13.2%）であった。
- 割合で比較すると、上越市は新潟県と比べ、「行祭事・イベント」の割合が突出して高く、「温泉・健康」及び「都市型観光」の割合が低いが、「歴史・文化」、「スポーツ・レクリエーション」は同程度の割合であった。

※「都市型観光」
…商業施設、直売所、
物産館など

■ 目的別の観光入込客数（平成29年）

	自然	歴史・文化	温泉・健康	スポーツ・レクリエーション	都市型観光	その他	行祭事・イベント	合計
新潟県	4,174,845	9,222,923	9,117,092	12,945,863	16,299,322	3,999,081	16,718,583	72,477,709
上越市	41,218	653,290	276,557	938,122	250,378	440,918	2,338,056	4,938,539
県(割合)	5.8%	12.7%	12.6%	17.9%	22.5%	5.5%	23.1%	100.0%
上越市(割合)	0.8%	13.2%	5.6%	19.0%	5.1%	8.9%	47.3%	100.0%



※新潟県観光入込客統計調査を基に
上越市で作成

2-4 来訪者数の県内外比率(県内エリア別)

- 来訪者数の県内外比率を県内エリア別で見ると、妙高・上越市エリアは、県内50.4%、県外49.6%であり、わずかに県内からの来訪者が多いが、県内、県外の来訪者の比率は半々である。
- 湯沢・魚沼エリアはわずかに県外の来訪者が多く、佐渡エリアは県外の来訪者が約6割を占めている。
- 一方、そのほかのエリアについては、県外来訪者より、県内来訪者の割合の方が多い。



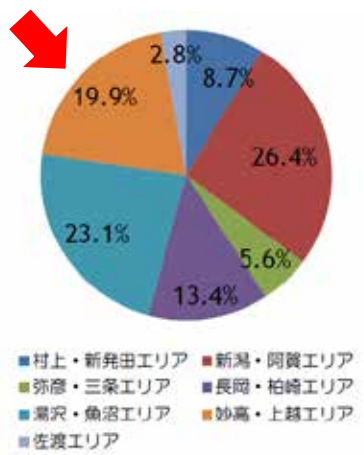
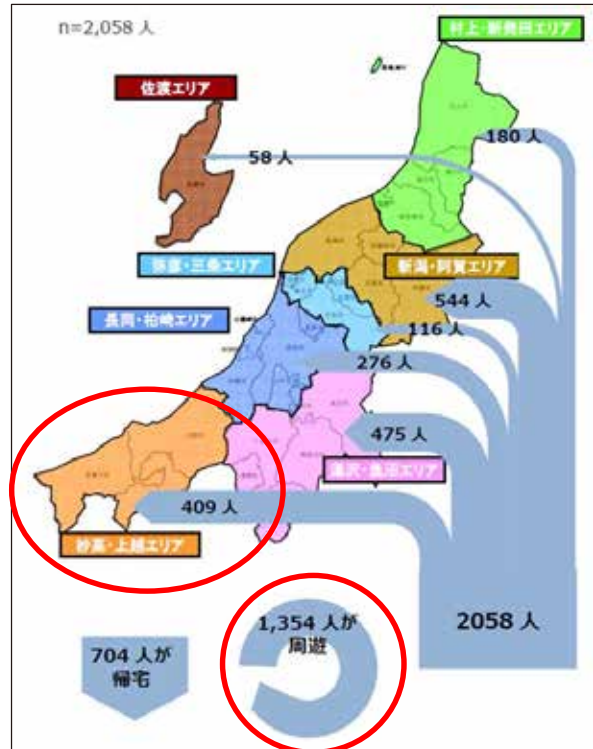
エリア	県内(人)	県外(人)	合計(人)	県内割合	県外割合
村上・新発田	3,761,841	855,857	4,617,698	81.50%	18.50%
新潟・阿賀	7,677,036	2,731,968	10,409,004	73.80%	26.20%
弥彦・三条	4,309,881	495,246	4,805,127	89.70%	10.30%
長岡・柏崎	5,636,589	1,671,959	7,308,548	77.10%	22.90%
湯沢・魚沼	1,912,271	2,228,966	4,141,237	46.20%	53.80%
妙高・上越	1,910,337	1,877,496	3,787,833	50.40%	49.60%
佐渡	190,197	348,652	538,849	35.30%	64.70%

※国内約7,000万台/訪日外国人約400万台のドコモの携帯電話の運用データを活用し、ビッグデータ「モバイル空間統計」を用いて動向分析したもの。
※グラフは、取得対象エリアの2015年8月、11月、2016年2月、5月の月間来訪者数の合計を表記したもの。
※「県内」は、新潟県内の市町村からの来訪者。「県外」は新潟県外を居住地としているものを対象。
※妙高・上越エリアには、妙高市、上越市、糸魚川市が含まれる

2-5 新潟県の県外観光客の周遊状況(エリア別)

- 県外来訪者の周遊状況を見ると、新潟県に訪れた2,058人の来訪者のうち、半数以上の1,354人が周遊している。
- 最初の来訪先として妙高・上越エリアへ409人が訪れており、県全体の19.9%を占めている。（県内3番目）
- 県内への最初の来訪先としては、新潟・阿賀エリア、湯沢・魚沼エリア、妙高・上越エリアで全体の約70%を占めている。

■ エリア別の県外観光客の周遊状況



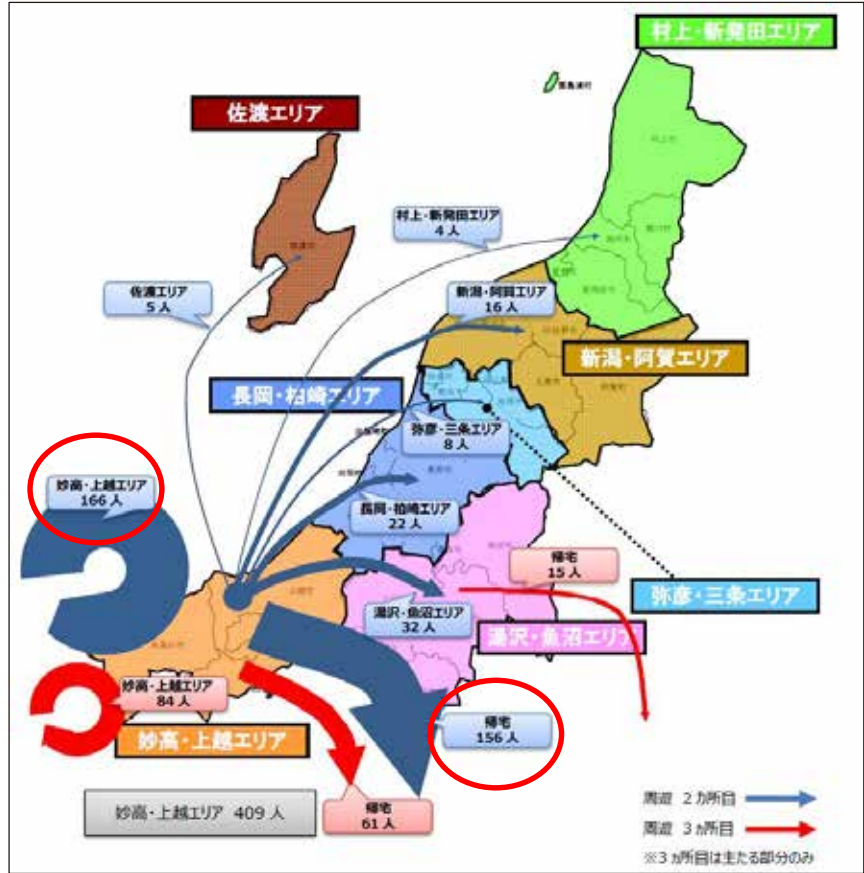
※周遊状況は、2015年9月～2016年9月の期間で観光を目的に来訪した2,058人を対象に調査を実施。

村上・新発田 エリア	新潟・阿賀 エリア	弥彦・三条 エリア	長岡・柏崎 エリア	湯沢・魚沼 エリア	妙高・上越 エリア	佐渡 エリア	合計
180	544	116	276	475	409	58	2,058

2-6 新潟県の県外観光客の周遊状況(上越エリア)

- 県外から妙高・上越エリアへ最初に来訪した409人の内、約38%の156人が妙高・上越エリアの一カ所だけのみを訪問し、帰宅している。
- 2カ所目を周遊した253人の内、約66%の166人は同一エリアの妙高・上越エリアを周遊しており、近隣含む他エリアへの周遊比率が低い。

・エリア別の県外観光客の周遊状況



2カ所目人数		3カ所目人数								
村上・新発田エリア	4	村上・新発田エリア	新潟・阿賀エリア	弥彦・三条エリア	長岡・柏崎エリア	湯沢・魚沼エリア	妙高・上越エリア	佐渡エリア	帰宅	
村上・新発田エリア	4	1	1	2	5	8	0	0	15	
新潟・阿賀エリア	16									
弥彦・三条エリア	8									
長岡・柏崎エリア	22									
湯沢・魚沼エリア	32									
妙高・上越エリア	166	3	3	1	9	5	84	0	61	
佐渡エリア	5									
帰宅	156									

3. 新潟県の詳細

3-1 新潟県の観光入込客数

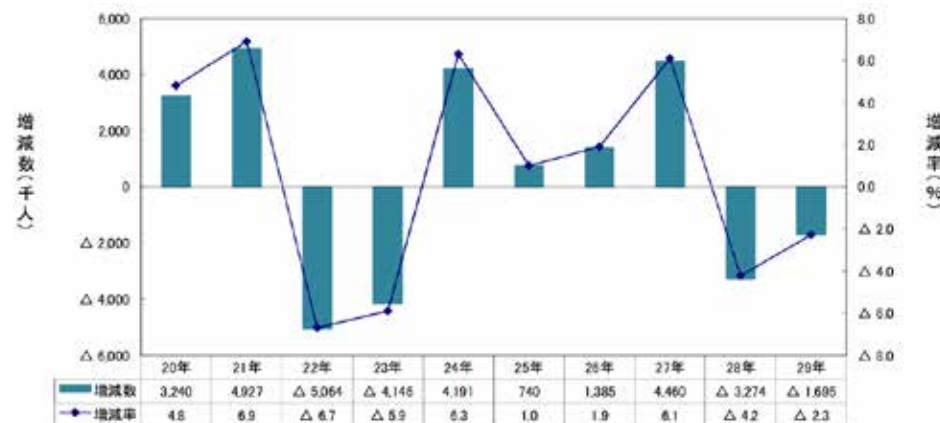
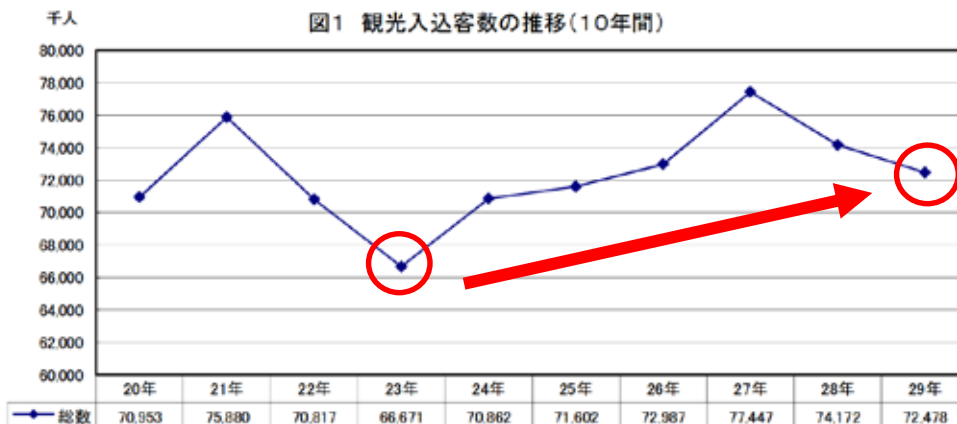
- 平成29年の新潟県の観光入込客数は72,477,709人であり、前年と比べると、1,694,700人（2.3%）減であった。
- 夏の天候不良（梅雨明けの遅れ、台風）による海水浴場への入込の減の他、県立美術館における前年の人気催展の反動等、上越市立水族博物館の改修による休館の影響で入込が減少した。
- 入込数の推移をみると、平成21年から平成23年にかけて入込が大幅に減少したが、近年では平成27年をピークにわずかに減少しているものの、概ね増加傾向にある。

■平成29年 新潟県観光入込客数

総数 72,477,709 人（対前年比△2.3%、△1,694,700 人）

※ 平成28年総数 74,172,409 人

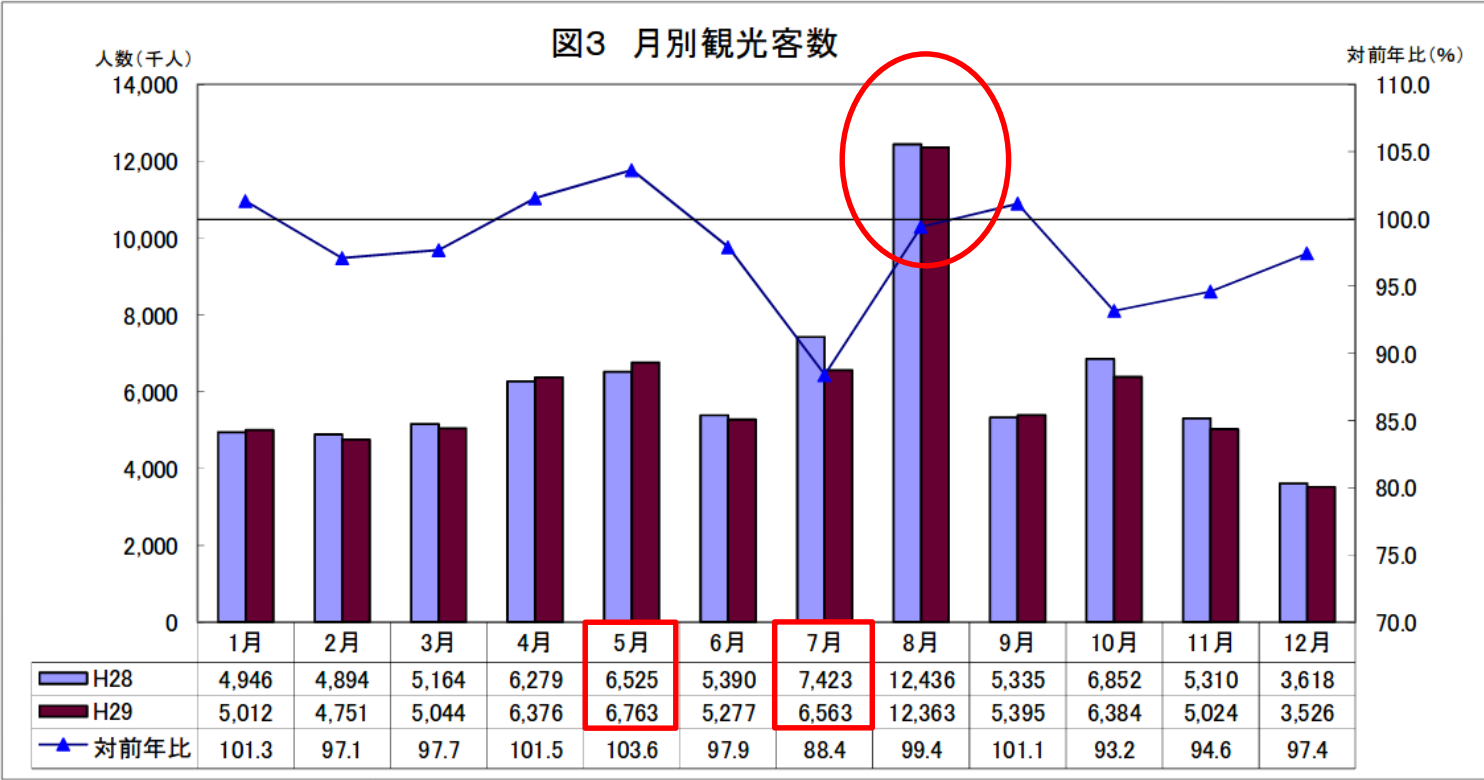
図1 観光入込客数の推移（10年間）



出典：平成29年新潟県観光入込客統計（新潟県）

3-2 新潟県の観光入込客数(月別)

- 平成28年、29年の新潟県の入込客数を月別で見ると、平成28年、29年共に8月の入込が最も多く、次いで7月の順に多い。
- 平成29年の入込については、ゴールデンウィークの曜日配列がよく、5連休になったことに加えて、おおむね好天に恵まれたことから、各観光地やイベント、スキー場への入込が好調となり、5月の入込が増加した。
- 一方、7月の入込については例年よりも梅雨明けが遅れ、天候不良の日が多かったことから、海水浴場や野外イベント等への入込が伸び悩み減少した。



出典：平成29年新潟県観光入込客統計（新潟県）

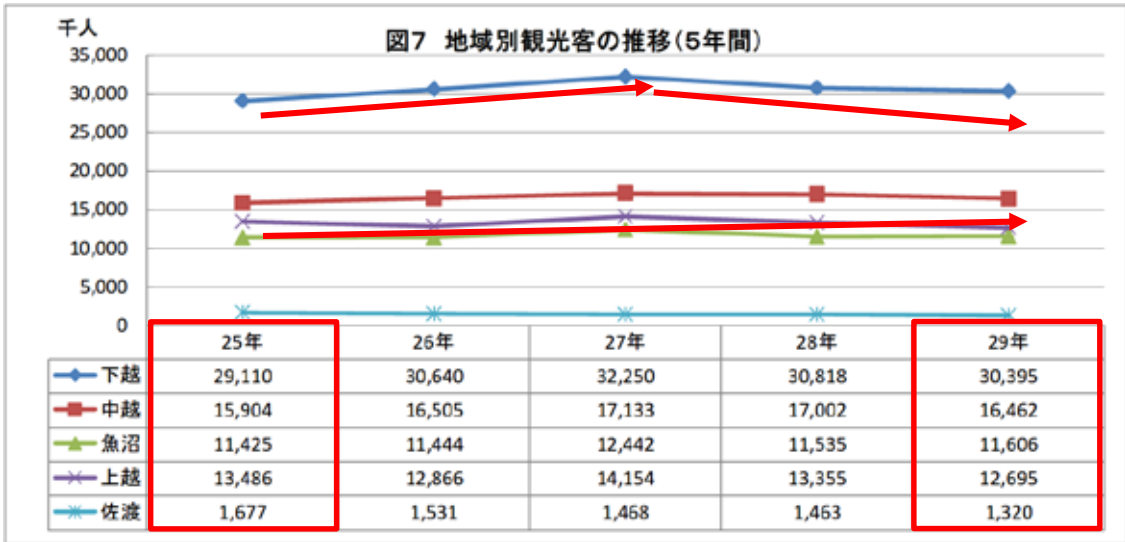
3-3 新潟県の観光入込客数(地域別)

- 新潟県の入込客数を地域別推移で見ると、下越地域、中越地域、魚沼地域は近年は平成27年をピークに減少傾向にあるが、平成25年から平成29年にかけては増加傾向にある。
- 上越地域は平成27年にかけて増加したものの、平成29年の入込は平成25年の入込を下回っており、全体として減少傾向にある。
- 佐渡地域については、平成25年から平成29年にかけて、緩やかに減少が続いている。

■ 地域別 観光入込客数

	H29	H28	前年差	対前年比	構成比	地点数
合計	72,478	74,172	△ 1,695	△ 2.3%	100.0%	974
下越	30,395	30,818	△ 423	△ 1.4%	41.9%	338
中越	16,462	17,002	△ 540	△ 3.2%	22.7%	251
魚沼	11,606	11,535	+71	+0.6%	16.0%	181
上越	12,695	13,355	△ 660	△ 4.9%	17.5%	160
佐渡	1,320	1,463	△ 143	△ 9.8%	1.8%	44

※端数処理（四捨五入）を行っているため、合計と内訳が一致しない場合があります（以下の表も同様）。

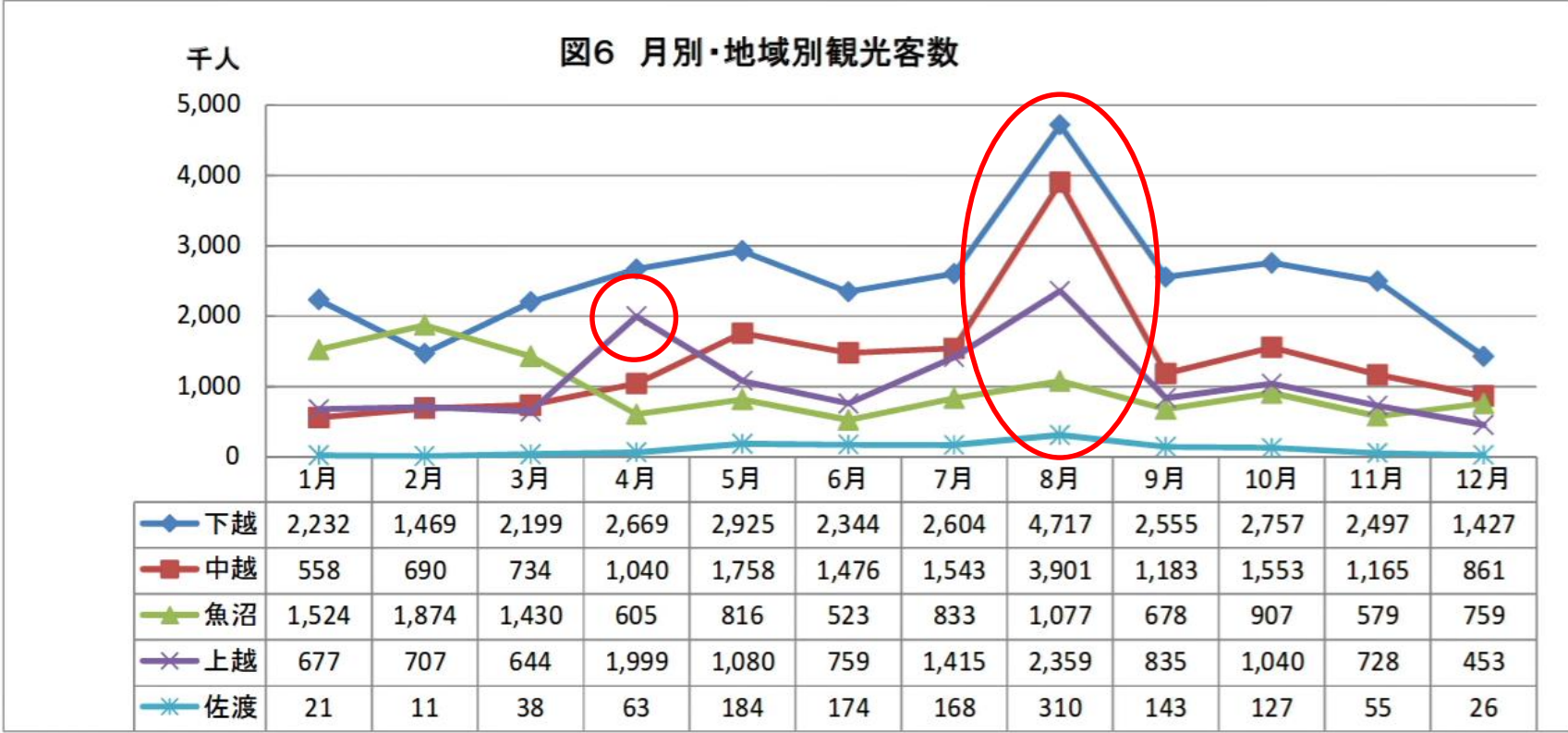


出典：平成29年新潟県観光入込客統計（新潟県）

3-4 新潟県の観光入込客数(地域別)

- 平成29年の新潟県の月別、地域別の観光入込客数を見ると、魚沼地域以外の地域は8月の入込が最も多く、冬に向けて、落ち込む傾向がある。一方魚沼地域は2月の入込が最も多くなっている。
- 下越地域、中越地域、佐渡地域については8月の次に5月の入込が多いが、上越地域は4月の入込が2番目に高くなっている。

■地域別月別 観光入込客数

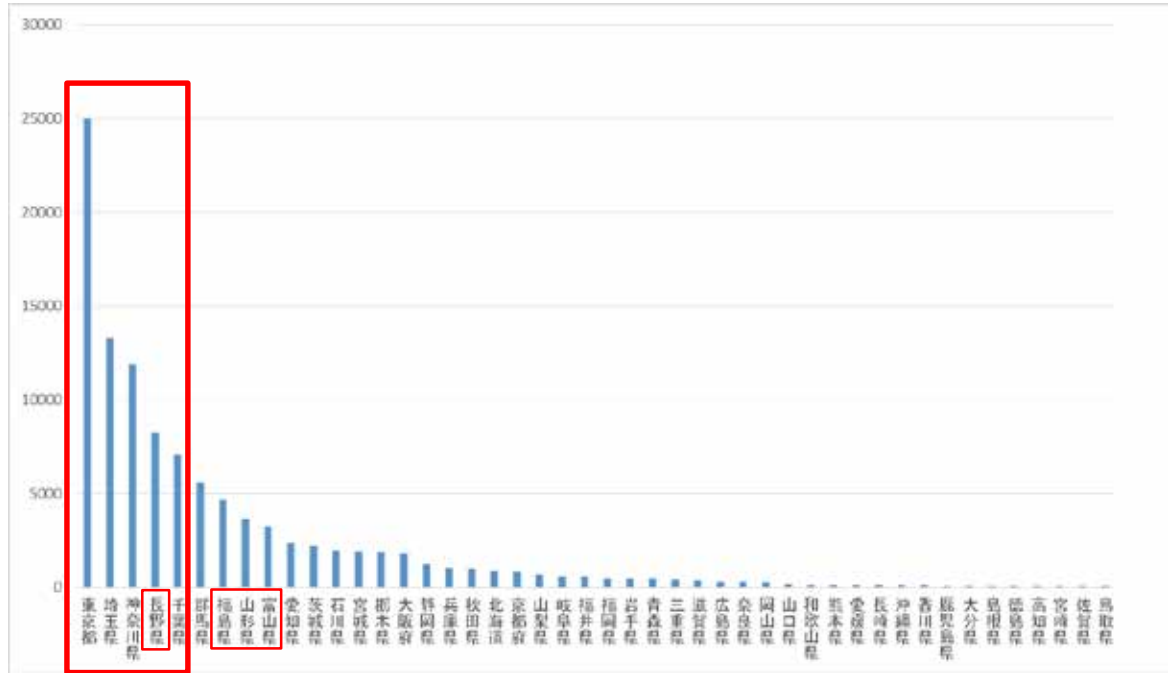


出典：平成29年新潟県観光入込客統計（新潟県）

3-5 国内来訪者数

- 2016年の新潟県の県外からの休日昼間の来訪者数を見ると、東京都からの来訪が最も多く24,951人、次いで埼玉県13,291人、神奈川県11,881人、長野県8,233人、千葉県7,065人の順に多く、特に関東からの来訪者が多い。
- 近隣の都道府県については、長野県からの来訪が最も多く、福島県、山形県、富山県の順に多い。

■ 休日昼間 都道府県別1日あたり来訪者数

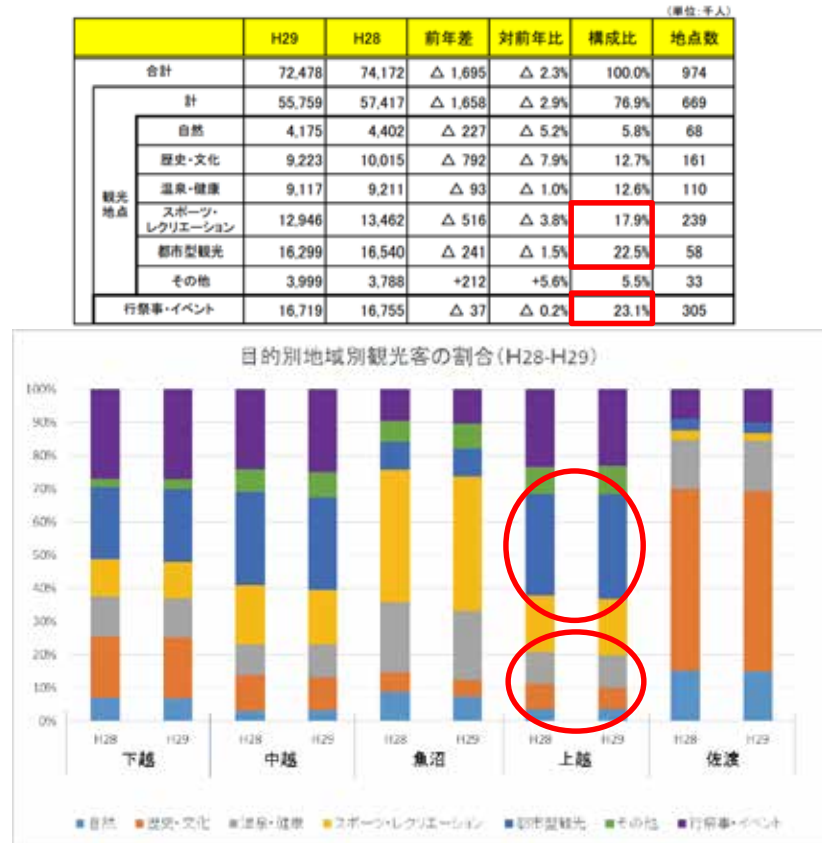
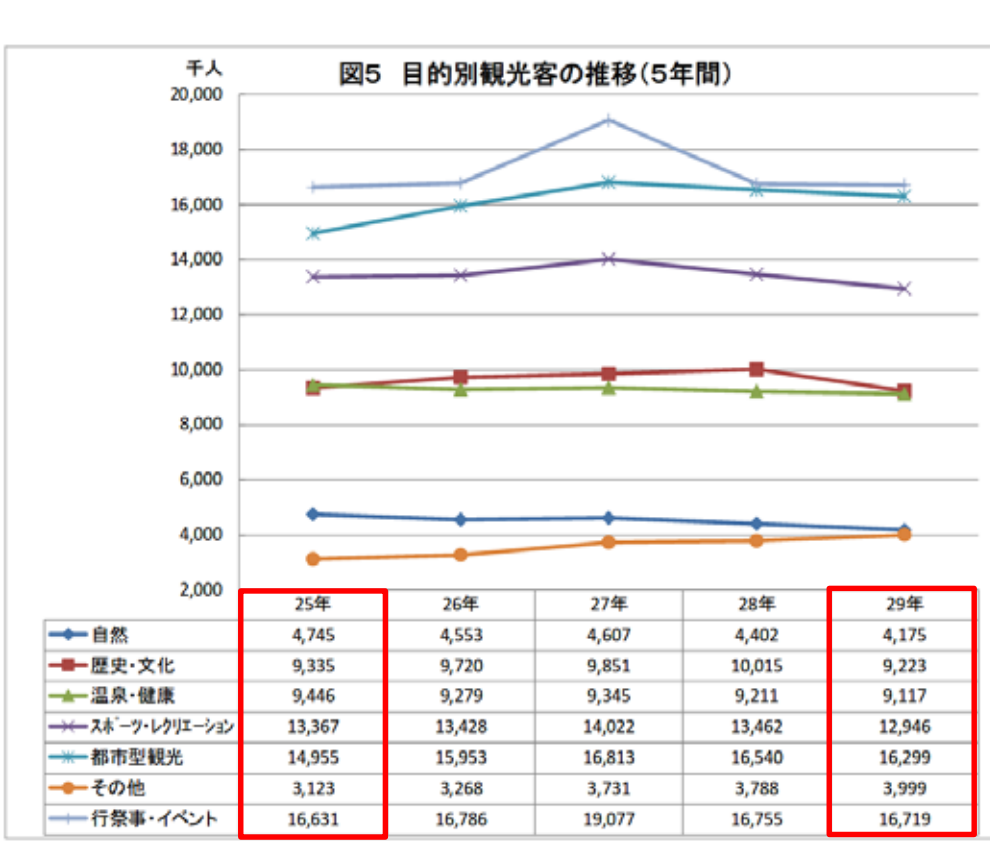


	都道府県	来訪者数(人)
1	東京都	24951
2	埼玉県	13291
3	神奈川県	11881
4	長野県	8233
5	千葉県	7065

※上記のグラフは、新潟県の県外来訪者(都道府県別)の休日昼間1日あたり来訪者数を表記したもの。なお、各月のデータを取得しており、それらの平均化(各月の合算後、4で割戻し)した数値としている。

3-6 新潟県の観光入込客数(目的別)

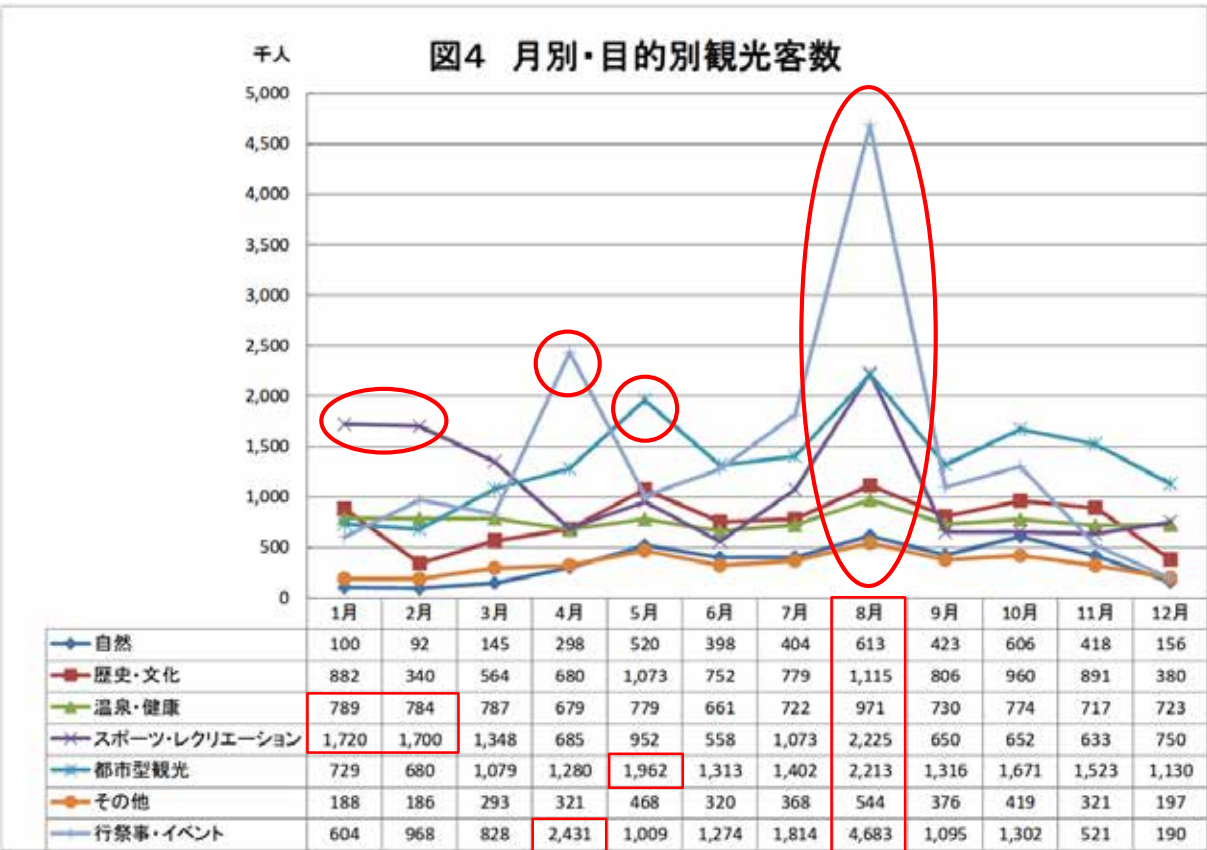
- 新潟県の入込客数を目的別で見ると、「行祭事・イベント」が最も多く、次いで「都市型観光」、「スポーツ・レクリエーション」の順に多くなっている。
- 5年間の推移をみると、「行祭事・イベント」、「都市型観光」、「その他」は増加傾向にあるが、そのほかについては減少傾向にある。
- 地域別でみると、魚沼地域は「スポーツ・レクリエーション」、佐渡地域は「歴史・文化」の割合が、他の地域に比べて大きい。
- 上越地域は、他の地域に比べると「都市型観光」の割合が大きく、「自然」、「歴史文化」、「温泉・健康」の割合がわずかに低い。



出典：平成29年新潟県観光入込客統計（新潟県）

3-7 新潟県の観光入込客数(月別 目的別)

- 新潟県の入込客数を月別・目的別に見ると、いずれも8月が最も多くなっている。
- 冬場については、概ねどの目的別も落ち込む傾向にあるが、「スポーツ・レクリエーション」、「温泉・健康」については、8月の次に1～2月の入込が多い。
- 「行祭事・イベント」の入込は8月の次に4月の入込が多くなっている。
- 「都市型観光」の入込は8月の次に5月の入込が多くなっている。



出典：平成29年新潟県観光入込客統計（新潟県）

4. 上越市の詳細

4-1 上越市の観光入込客数(年間)

- 上越市の入込客数を年別に見ると、平成26年では台風の影響から海水浴客が大幅に減少したが、平成27年には北陸新幹線及びえちごトキめき鉄道開業イベントの効果や、天候が良好だったことによるイベント、海水浴客の増加の影響で入込が回復した。
- 平成28年では、開業イベントが単年度のイベントだったこと及び謙信公祭へのタレント招致をやめたことによる影響等から減少した。
- 平成29年には、上越市立水族博物館のリニューアルオープンに伴う閉館、天候不良による海水浴客の減などの影響などにより大幅に減少した。

■ 年間入込客数の推移 (年間)

(単位:人)

※新潟県観光入込客統計調査を基に
上越市で作成

	H25	H26	H27	H28	H29
入込数	5,687,400	5,468,573	5,782,009	5,519,972	4,938,539
対前年増加比		103.9%	96.2%	105.7%	95.5%



(単位:人)

観光地点名	観光目的	平成29年	平成28年	対前年比
春日山城跡	歴史・文化	253,920	260,280	97.6%
上越科学館	歴史・文化	84,118	97,257	86.5%
水族博物館	歴史・文化	60,439	198,927	30.4%
ゆきだるま温泉	温泉・健康	60,525	60,212	100.5%
鶴の浜温泉	温泉・健康	71,308	71,368	99.9%
県立大湯水と森公園	スポーツ・レクリエーション	82,970	94,916	87.4%
上越観光物産センター	都市型観光	100,411	118,816	84.5%
雪だるま物産館	都市型観光	88,605	93,066	95.2%
道の駅 よしかわ杜氏の郷	その他	61,868	61,901	99.9%
うみてらす名立	その他	379,050	374,540	101.2%
高田城百万人観桜会(4月)	行祭事・イベント	1,327,000	1,301,000	102.0%
上越まつり(7月)	行祭事・イベント	289,500	327,600	88.4%
上越蓮まつり(7-8月)	行祭事・イベント	190,000	244,600	77.7%
謙信公祭(8月)	行祭事・イベント	149,600	148,600	100.7%
越後・謙信SAKEまつり(10月)	行祭事・イベント	96,000	121,000	79.3%
たにはま海水浴場	スポーツ・レクリエーション	179,630	214,980	83.6%
なおえつ海水浴場	スポーツ・レクリエーション	161,710	191,310	84.5%
柿崎区中央海水浴場	スポーツ・レクリエーション	11,200	18,670	60.0%
鶴の浜海水浴場	スポーツ・レクリエーション	53,420	74,400	71.8%

100万人以上 30万人以上 10万人以上

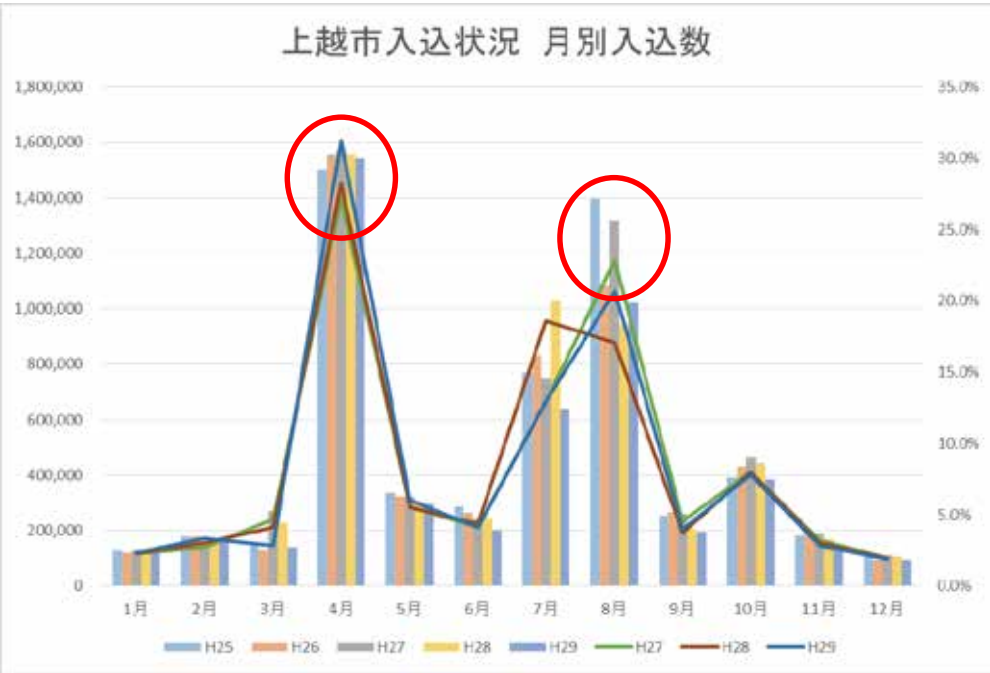
4-2 上越市の観光入込客数(月別)

- 上越市の入込数を月別の推移で見ると、いずれの年も主要なイベントが開催される、4月、7月、8月（7月及び8月には海水浴場もオープン）、10月の入込が増加する一方、主なイベントが無い月の入込は落ち込む傾向となっている。
- 各月ごとの入込の割合は、どの年も概ね同程度あるが、7月、8月の入込数は年によりばらつきが大きい。

■ 年間入込客数の推移（月別）

(単位: 人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H25	129,181	179,295	152,207	1,502,443	336,435	286,663	770,457	1,396,833	252,524	391,761	183,696	105,905	5,687,400
H26	120,679	178,906	130,690	1,557,859	324,085	263,969	831,757	1,083,466	266,300	429,625	188,169	93,068	5,468,573
H27	131,211	158,436	270,503	1,569,641	322,035	239,638	746,508	1,320,192	261,987	461,887	188,172	111,799	5,782,009
H28	124,641	165,990	227,655	1,558,174	304,149	242,788	1,027,650	943,141	206,417	442,391	168,471	108,506	5,519,972
H29	115,993	165,105	140,416	1,543,697	297,143	202,918	639,740	1,020,999	195,307	383,493	139,571	94,157	4,938,539



※新潟県観光入込客統計調査を基に
上越市で作成

4-3 上越市の宿泊者数

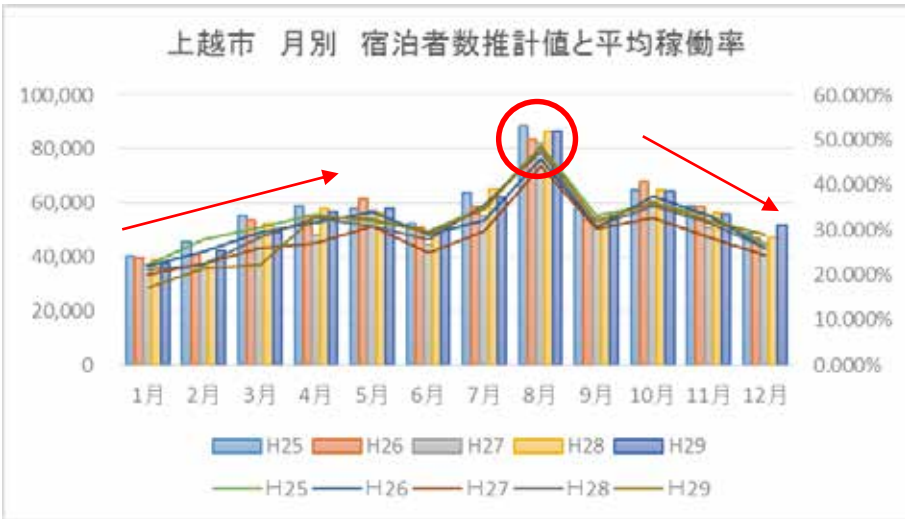
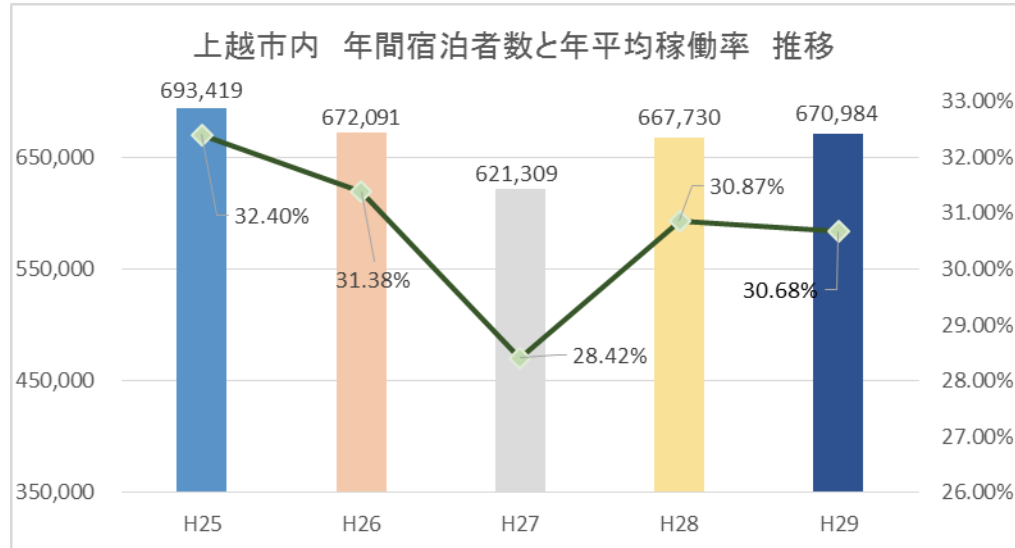
- 近年の年間推計宿泊者数は、おおむね66万人で推移している。
- 年間平均稼働率は、各年共に約3割前後で推移している。
- 月別で見ると、海水浴シーズン及び謙信公祭が開催される8月の宿泊者数及び稼働率が最も高く、冬場は宿泊者が落ち込む傾向にある。

※回答のあった施設の数値を基に推計値を算出し比較。
※年によって回答施設が異なることから、単純比較はできず、あくまで参考。
※H28は2回調査し、1回目は暦年、2回目は年度で調査。
※本比較では比較しやすいようH28年については1回目の調査の数値を使用。
※H29の1月～3月の数値はH28年の2回目の調査の数値を使用。

(単位: 人)

■年間宿泊者数の推移 (人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H25	40,348	45,674	55,364	58,847	58,151	52,167	63,884	88,598	58,211	64,646	58,810	48,719	693,419
H26	39,777	41,336	53,581	55,373	61,856	51,024	58,428	83,349	53,781	67,992	58,525	47,070	672,091
H27	37,236	37,666	47,971	48,379	56,979	44,545	55,345	82,054	54,337	60,840	50,955	44,999	621,309
H28	38,851	38,319	52,121	57,882	56,261	49,454	65,041	86,675	54,613	64,747	56,232	47,534	667,730
H29	37,411	42,530	48,939	56,870	58,233	51,146	61,900	86,620	55,236	64,513	55,879	51,710	670,984

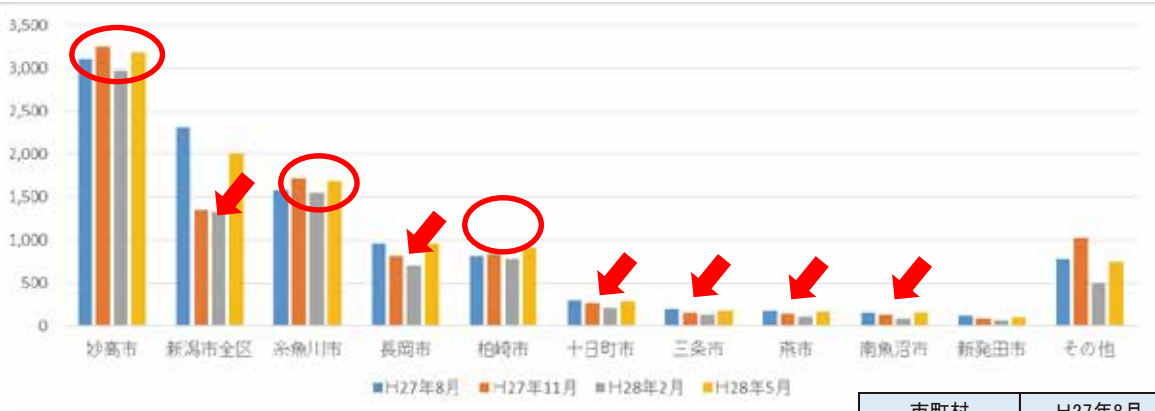


※上越市独自調査を基に作成

4-4 上越市の県内来訪者数(市町村別)

- 平成27から平成28年にかけての上越市の県内からの1日（休日昼間）あたりの平均来訪者数を見ると、どの時期においても妙高市からの来訪者が最も多い。
- 新潟市においては、5月及び8月の来訪者が伸びているが、11月及び2月の来訪者が大きく落ち込んでいる。また、長岡市、十日町市、三条市、燕市、南魚沼市、新発田市についてもわずかであるが、同様に11月及び2月の来訪者が落ち込んでいる。
- 一方、妙高市、糸魚川市、柏崎市については11月及び5月の来訪者の方がわずかに増加している。

■ 上越市の一日あたりの平均来訪者数（休日の昼間10～17時）



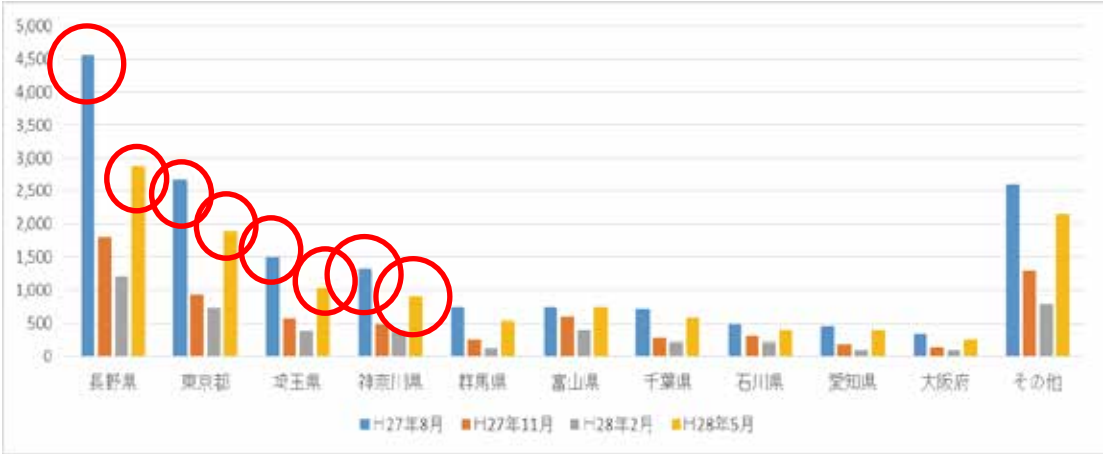
出典：ビッグデータを活用した交流人口動向分析2016（新潟県）

(単位: 人)						
市町村	H27年8月	H27年11月	H28年2月	H28年5月	合計	割合
妙高市	3,101	3,250	2,975	3,178	12,504	31.9%
新潟市全区	2,316	1,342	1,324	2,004	6,986	17.8%
糸魚川市	1,580	1,719	1,551	1,683	6,533	16.7%
長岡市	968	816	701	966	3,451	8.8%
柏崎市	815	834	783	911	3,343	8.5%
十日町市	302	265	212	290	1,069	2.7%
三条市	199	156	130	174	659	1.7%
燕市	181	146	116	172	615	1.6%
南魚沼市	151	132	96	156	535	1.4%
新発田市	126	88	75	105	394	1.0%
その他	786	1,029	503	750	3,068	7.8%
総計	10,525	9,777	8,466	10,389	39,157	100.0%
割合	26.9%	25.0%	21.6%	26.5%	100.0%	

4-5 上越市の県外来訪者数(都道府県別)

- 平成27年から平成28年にかけての上越市の県外からの1日（休日昼間）あたりの平均来訪者数を見ると、どの調査時期についても長野県からの来訪者が最も多く、次いで東京都、埼玉県、神奈川県、群馬県の順に多い。
- いずれの県においても、5月及び8月の来訪者が多く、11月及び2月の冬の時期に落ち込む傾向にある。特に長野県及び関東からの来訪者について顕著である。
- 北陸新幹線沿線都市がある富山県、石川県、群馬県からの来訪者の割合は全体の1～2割ほどである。

■ 上越市の一日あたりの平均来訪者数（休日の昼間10～17時）



出典：ビッグデータを活用した交流人口動向分析2016（新潟県）

(単位:人)						
都道府県	H27年8月	H27年11月	H28年2月	H28年5月	合計	割合
長野県	4,562	1,807	1,207	2,877	10,453	26.4%
東京都	2,682	936	732	1,887	6,237	15.7%
埼玉県	1,497	573	395	1,046	3,511	8.9%
神奈川県	1,328	499	383	907	3,117	7.9%
群馬県	752	254	128	542	1,676	4.2%
富山県	752	595	412	756	2,515	6.3%
千葉県	719	279	229	583	1,810	4.6%
石川県	503	321	228	406	1,458	3.7%
愛知県	471	196	104	405	1,176	3.0%
大阪府	342	153	97	252	844	2.1%
その他	2,598	1,298	793	2,152	6,841	17.3%
総計	16,206	6,911	4,708	11,813	39,638	100.0%
割合	40.9%	17.4%	11.9%	29.8%	100.0%	

4-6 上越市の観光資源

【レジャー・スポーツ】							【寺社】				【碑・像・文化財】				
	海水浴場	キャンプ場	スキー場	登山・トレッキング	プール	その他		寺	神社	その他		石碑	像	文化財	その他
五智公園						○	米山	○			上越市立歴史博物館			○	
金谷山公園			○			○	林泉寺	○			上越市埋蔵文化財センター			○	
船見公園						○	五智国分寺	○			春日山城史跡広場・春日山城跡ものがたり館			○	
新潟県立大湯水と森公園						○	岩殿山 明静院	○			小林古径記念美術館・小林古径邸			○	
大池いこいの森		○					傍巖寺	○			牧歴史民俗資料館			○	
坊ヶ池湖畔公園		○				○	浄福寺	○			地すべり資料館				○
シーサイドパーク名立						○	浄善寺	○			高田公園	○	○		
光ヶ原高原		○		○			密蔵院(米山薬師別当寺)	○			虫川の大杉			○	
米山				○			春日山神社		○		長峰池			○	
霧ヶ岳				○			春日神社		○		春日山城跡		○	○	
菰蒲高原		○					居多神社		○		大間城跡			○	
なおえつ海水浴場	○						榊神社		○		水科古墳群			○	
たにはま海水浴場	○						春日神社(本町○)		○		五智国分寺		○	○	
鵜の浜海水浴場	○						安塚神社(諏訪神社)		○		岩殿山 明静院			○	
柿崎中央海水浴場	○						風巻神社		○		傍巖寺			○	
リージョンプラザ上越					○	○	山寺薬師			○	密蔵院(米山薬師別当寺)			○	
上越市海洋フィッシングセンター						○	岩屋堂観音堂			○	春日山神社	○	○		
上越市BMX場						○	浄興寺	○			板山不動尊			○	
大湯シーサイドアスレチック(大湯野外活動施設)		○				○	十念寺「浜の善光寺」	○			山寺薬師			○	
うみてらす名立					○		府中八幡宮		○		岩屋堂観音堂			○	
南葉高原キャンプ場		○					本願寺国府別院	○			いわおの石仏群		○		
伏兵キャンプ場		○					称念寺	○			安寿と厨子王の供養塔				○
雪だるま高原キュービットパレイスキー場		○	○				瑞泉寺	○			高田世界館			○	
マリンホテルハマナス	○						光源寺	○			スイッチバックの駅 えちごトキめき鉄道(株) 二本木駅 喫茶 なかごうさとまる一む			○	
温泉とプール 鵜の浜 人魚館					○						浄興寺			○	
スカイヒア遊ランド				○		○					岩の原葡萄園			○	
米山水源ホテル						○					十念寺「浜の善光寺」			○	
妙高サンシャインホテル						○					称念寺		○	○	
妙高サンシャインランド						○					瑞泉寺			○	
信越トレイル(安塚区)				○							人魚伝説公園	○	○		
信越トレイル(大島区)				○							上越歴史館 釜蓋遺跡ガイダンス			○	
信越トレイル(牧区)				○							小川未明生誕の地	○			
信越トレイル(清里区)				○							御館公園(御館跡)	○			
信越トレイル(板倉区)				○							平和記念公園・展示館	○	○		
松ヶ峯						○					高橋孫左衛門商店			○	
ユートピアくびき希望館						○					光源寺			○	
たにはま公園						○									
大池いこいの森ビクターセンター		○													
上越リゾートセンターくるみ家族園						○									

【お土産・物産】						【宿泊・体験】					
	酒・ワイン	道の駅	朝市	お土産	その他	宿泊施設	農家民宿	体験施設	温泉	その他	
坂口記念館	○				○	上越市埋蔵文化財センター		○			
あしんの里記念館				○	○	上越清里星のふるさと館		○			
牧ふるさと村 自然と憩の森					○	五智公園		○			
北ヶ原高原					○	牧ふるさと村 自然と憩の森		○			
フーミーランド					○	新潟清里星のふるさと館		○			
葛湯高原					○	氷ヶ原高原	○				
なえつ湯水浴場					○	フーミーランド		○			
たにはま湯水浴場					○	葛湯高原	○				
鶴の浜湯水浴場					○	うみてらす名立			○		
柿崎中央湯水浴場					○	南葉高原キャンプ場	○				
うみてらす名立	○	○		○	○	雪だるま高原キュービッドパレスキー場	○		○		
南葉高原キャンプ場					○	あさひの里 大鳥庄屋の家	○	○			
上越観光物産センター	○			○		宿泊体験交流施設 月影の郷					
雪だるま物産館		○		○		マウンテンバー川上英字館	○	○			
太島青森市場	○			○	○	牧ふれあい体験交流施設		○			
SAKURAプラザ	○			○	○	くわどり湯つたりに	○				
四ヶ丸の市			○			牧湯の里深山荘	○				
二ヶ丸の市			○			マリノホテルハマナス	○				
三ヶ丸の市			○			温泉とプール 鶴の浜 人魚館			○		
一日市			○			長峰温泉 ゆつたりの郷			○		
牧湯の里深山荘				○	○	スカイピア遊ランド	○	○			
温泉とプール 鶴の浜 人魚館					○	あしんの里やすらぎ荘			○		
長峰温泉 ゆつたりの郷					○	三和ネイチャリングホテル米本陣	○		○		
スカイピア遊ランド					○	花立温泉ろばた館			○		
あしんの里やすらぎ荘				○		きほだの宿	○				
花立温泉ろばた館					○	ペンションLIVE	○				
スイッチバックの駅 えちごきめき鉄道(株) 二本木駅					○	ヴィラ・アルビース	○				
喫茶 なかごうとまーむ											
黒蒸の宿 かわ	○					黒蒸の宿 かわ	○				
傾城酒造株式会社	○					米山温泉ホテル	○				
上越酒造株式会社	○					旬の盛り 夕彩の宿 佐達見亭	○				
株式会社武蔵野酒造	○					お食事の館・旅人の宿 わすけ	○				
妙高酒造株式会社	○					割烹・通年民宿 やまや	○				
岩の原葡萄園	○			○	○	アートホテル上越	○				
春日山旅館				○		高田タミナルホテル	○				
株式会社丸山酒造場	○					タカダステーションホテル	○				
合資会社竹田酒造店	○					きっちゃんやど本舗	○				
松ヶ峯温泉 ひばり荘					○	上越サンプラザホテル	○				
体験交流施設 そば処いたくら亭					○	蒼羽館	○				
旬菜交流館 あるん畑				○	○	ハーバース&ホテル元氣人	○		○		
高沢黒蒸園					○	ホテルセンチュリーイカヤ	○				
ふれあい野果市(ろばた館)					○	ホテルルートイン上越	○				
福平長谷野果産売所					○	附船庫旅館	○				
山本ふどう園						藤玄衛門	○				
くわどり市民の森					○	旅館シーサイドわかば	○				
五智歴史の里会館				○		旅館彦治右エ門	○				
母の花ことば					○	米山ハートホテル	○				
倉ら黒のテーマパーク あるん畑				○	○	春日山旅館	○				
道の駅よしかわ村氏の郷	○	○		○	○	いそや旅館	○				
高橋孫左衛門商店					○	喜久屋	○				
代々菊醸造株式会社	○					株式会社丸山酒造場		○			
ふれあい野果市(JA名立支店)					○	夕彩の湯みかく	○		○		
						潮黒黒の宿みほらし	○		○		
						割烹旅館 日本海	○		○		
						高台の宿 三島	○		○		
						べつと泊まれる温泉宿 わん宿うの浜館	○		○		
						ロイヤルホテル小林	○		○		
						鶴の浜ニューホテル	○		○		
						ピーチホテル竹清	○		○		
						合資会社竹田酒造店		○			
						妙高サンシャインホテル	○				
						松ヶ峯温泉 ひばり荘			○		
						松田旅館	○				
						体験交流施設 そば処いたくら亭		○			
						ホテル上越パブリックシティ	○				
						地球環境学校	○	○			
						ユートピア(びき希望館)			○		
						六夜山荘	○	○			
						正善寺工房		○			
						大池いこいの森ビジターセンター	○	○			
						くわどり市民の森		○			
						上越歴史館 釜蓋道徳ガイダンス		○			
						母の花ことば		○			
						市民いこいの家				○	
						泊処 来食の		○			
						農家民宿 うしだ屋		○			
						玉屋旅館	○				

上越市の状況 まとめ

○全体の入込客数の状況 ※新潟県の状況も踏まえて記述

- ・新潟県の入込客数は、直近3か年（平成27年～平成29年）で、平成27年の入込をピークに毎年約2,000千人程度減少している状況であるが、長期（5～10年間）で見ると、平成23年から増加傾向にある。

【P19、P26】

- ・上越市の入込客数は、平成27年をピークに減少している状況である。【P19、P34】

○月別、季節別の入込客数の状況

- ・新潟県全体の入込客数は8月が最も多く、次いで7月が多い。【P20、P29】
- ・上越市の入込客数は4月が最も多く、次いで8月が多い。また、8月の入込は年によってばらつきが見られる。【P20、P35】
- ・新潟県全体及び上越市共に冬季の入込客数が落ち込む傾向にある。【P20、P27、P35、P38】

○来訪者の目的

- ・来訪者の目的別入込数は新潟県全体及び上越市共に「行祭事・イベント」が最も高く、特に上越市については「行祭事・イベント」の入込客数が新潟県全体と比べても突出して高い。【P21】
- ・上越市は「行祭事・イベント」と「スポーツ・レクリエーション」を目的とする来訪者が年間入込客数の約7割を占めている。【P21】

○来訪者の出発地点

- ・新潟県への県外からの来訪者は東京都、埼玉県、神奈川県、長野県からの来訪者が多く、特に上越市は長野県からの来訪者が一番多い。【P30、P38】
- ・北陸新幹線停車駅都市がある富山県、石川県、群馬県からの上越市への来訪者は全体の1～2割である。【P38】

- 4月、8月の入込客数及び「行祭事・イベント」の来訪者が多く、上越市の観光は観桜会及び夏のイベント、海水浴場が主な集客資源となっている。
- このことから、天候などの要因に左右されやすい実情にある。
- 関東や長野県からは多くの来訪者があるが、近隣県からの来訪がまだまだ少ない状況である。

5. 新潟県及び上越市の訪日外国人旅行者の状況

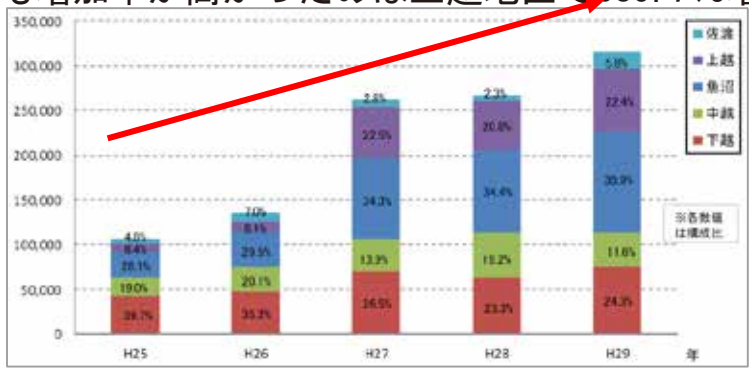
5-1 新潟県の外国人延べ宿泊者数

- 平成29年の新潟県の外国人延べ宿泊者数は315,400人で、対前年比18.1%増、対平成25年比196.1%増となっており、
年々増加している。
- 地区別の構成比では、魚沼地区、下越地区、上越地区、中越地区、佐渡地区の順に大きく、構成比順位は変わらず推移しているが、平成28年と平成29年を比較すると、中越地区のみ減少している。
- 平成25年に対する平成29年の増加人数及び増加率を見ると、増加人数が最も多かったのは魚沼地区の83,415人増

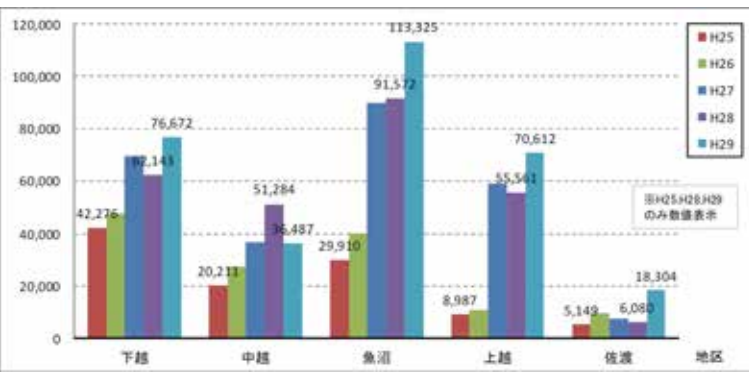
■外国人延べ宿泊者数・構成比の推移(平成25年～平成29年)
最も増加率が高かったのは上越地区で685.7%増であった。

(単位: 人泊 %)

(人泊)



(人泊)



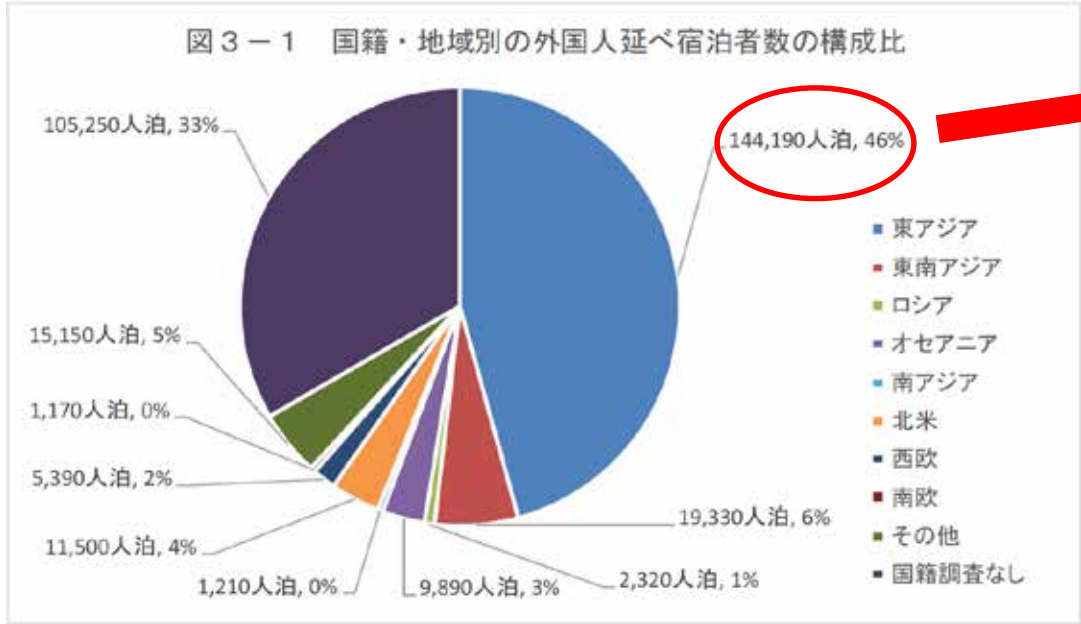
地区		H25	H26	H27	H28	H29	(H29-H25)	(H29-H25)/H25(%)
下越	外国人延べ宿泊者数	42,276	47,748	69,576	62,143	76,672	34,396	81.4
	構成比	39.7	35.2	26.5	23.3	24.3	-15.4	
中越	外国人延べ宿泊者数	20,211	27,294	36,567	51,284	36,487	16,276	80.5
	構成比	19	20.1	13.9	19.2	11.6	-7.4	
魚沼	外国人延べ宿泊者数	29,910	40,038	89,975	91,952	113,325	83,415	278.9
	構成比	28.1	29.5	34.3	34.4	35.9	7.8	
上越	外国人延べ宿泊者数	8,987	10,962	58,990	55,561	70,612	61,625	685.7
	構成比	8.4	8.1	22.5	20.8	22.4	14	
佐渡	外国人延べ宿泊者数	5,149	9,478	7,382	6,080	18,304	13,155	255.5
	構成比	4.8	7	2.8	2.3	5.8	1	
合計		106,533	135,520	262,490	267,020	315,400	208,867	196.1%
対前年比			127.2%	193.7%	101.7%	118.1%		

出典：外国人宿泊者数の県内地区別推計について（新潟県）

※外国人宿泊者数の県内地区別推計について（新潟県）を基に上越市で作成

5-2 新潟県の外国人宿泊者数(年別 国籍・地域別)

- 平成29年の新潟県の外国人延べ宿泊者数315,400人泊のうち、東アジア地域が144,190人泊（46%）であり、約半数が東アジア地域からの宿泊となっている。
- 東アジア地域の内訳としては台湾70,950人泊（22%）、中国36,480人泊（12%）、韓国18,500人泊（6%）香港18,260人泊（6%）となっている。



	H25	H26	H27	H28	H29
韓国	14650	11720	17720	18790	18500
中国	14416	19015	38230	33910	36480
香港	6700	7080	13460	15970	18260
台湾	19540	27240	36830	44090	70950
シンガポール	1790	3170	5200	5400	6000
タイ	1950	3430	6180	7190	6540
マレーシア	1340	1410	2970	3020	2380
インドネシア	1040	1400	3060	2200	1970
ベトナム	180	540	640	990	990
フィリピン	400	670	1190	1370	1450
ロシア	3760	3210	4020	4380	2320
オーストラリア	2770	3090	8360	12020	9890
インド	500	570	920	1440	1210
アメリカ	8230	8530	11320	10610	10190
カナダ	1040	690	1030	1040	1310
イギリス	2010	3910	3440	3190	2580
ドイツ	1750	1230	2510	2030	1960
フランス	1010	930	1280	1320	850
イタリア	0	0	580	610	770
スペイン	0	0	250	320	400
その他	10560	14240	15260	18540	15150
国籍調査なし	12897	23445	88040	78590	105250
計	106533	135520	262490	267020	315400

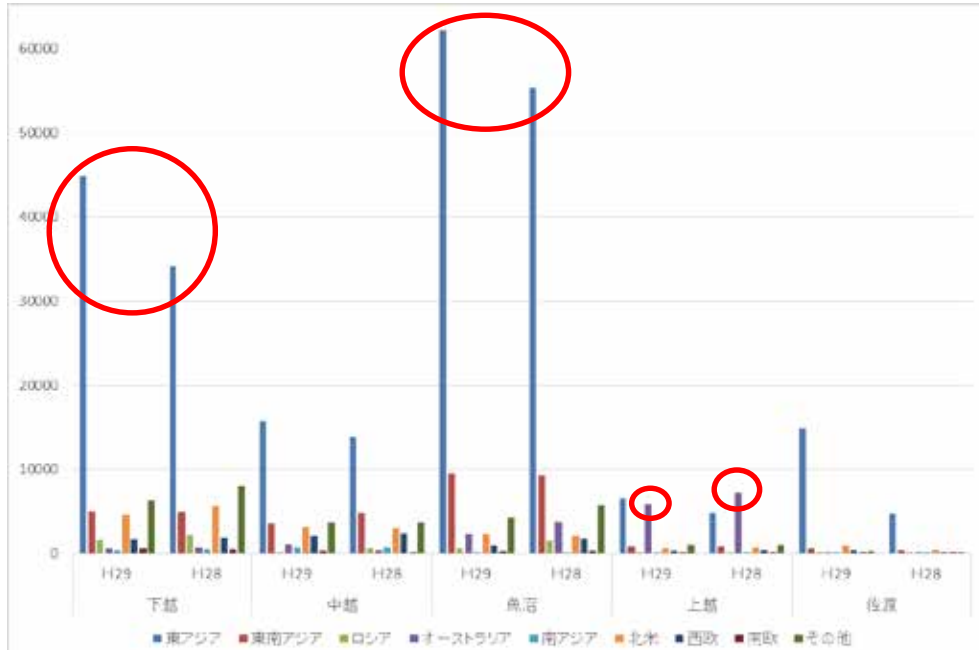
出典：外国人宿泊者数の県内地区別推計について（新潟県）

※外国人宿泊者数の県内地区別推計について（新潟県）を基に
上越市で作成

5-3 新潟県の外国人宿泊者数(地区別 国籍・地域別)

- 外国人宿泊者を地区別国籍・地域別に見ると、すべての地区において、東アジアからの来訪者が多く、特に下越地区、魚沼地区への来訪が多い。
- 上越地区では他の地区と比べ、特にオーストラリアからの来訪者が多く、約4割を占めている。(他の地区では1割未満) また、平成29年ではオーストラリアの来訪者が一番多かった。
- 一方、上越地区では東南アジアからの来訪者の割合が他の地区と比べるとわずかであるが少ない状況である。

■地区別国籍・地域別宿泊状況



※外国人宿泊者数の県内地区別推計について（新潟県）を基に上越市で作成

		(単位:人泊)								
	年	東アジア	東南アジア	ロシア	オーストラリア	南アジア	北米	西欧	南欧	その他
下越	H29	44881	4972	1543	598	409	4563	1645	564	6225
	H28	34128	4852	2207	724	520	5595	1887	487	8049
中越	H29	15743	3556	138	1066	661	3174	2093	351	3631
	H28	13840	4827	643	395	749	2929	2369	141	3600
魚沼	H29	62203	9451	579	2282	102	2279	925	185	4163
	H28	55384	9274	1472	3692	142	2025	1739	287	5769
上越	H29	6569	780	57	5859	26	575	286	27	945
	H28	4750	791	52	7183	20	724	411	7	985
佐渡	H29	14794	572	3	83	12	909	441	43	185
	H28	4658	425	6	26	8	377	134	8	136

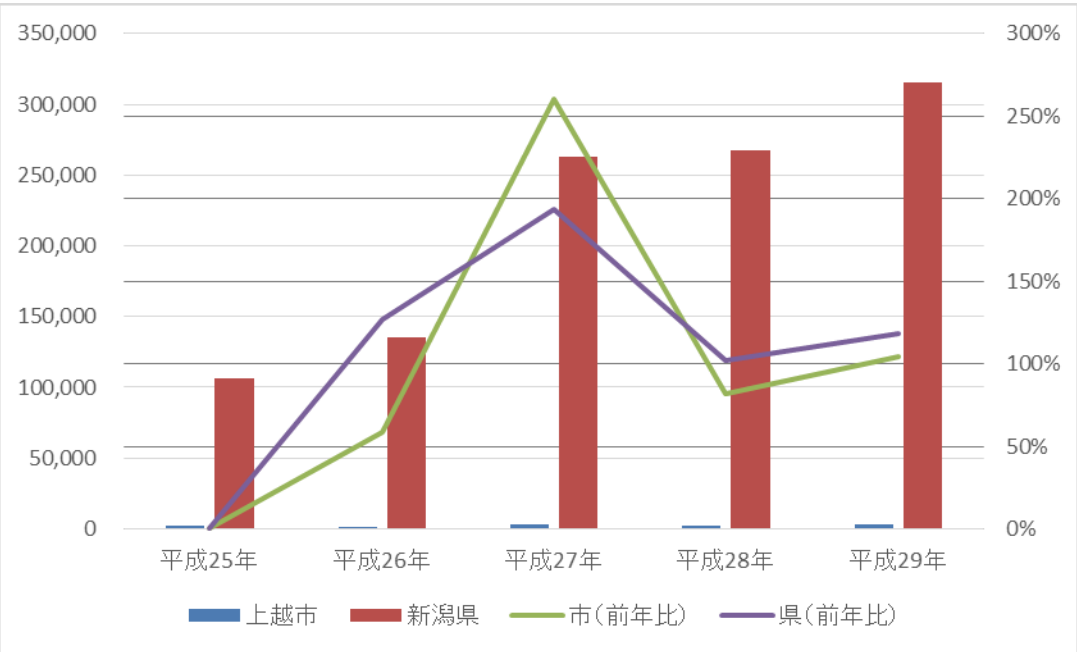
※各年上位3市場を着色

5-4 上越市の外国人宿泊者数

- 新潟県と上越市の外国人宿泊者数を見ると、新潟県は年々増加傾向にあるが、上越市は平成27年に急増したものの、平成28年から一旦伸びが落ち着いた状況である。
- 平成26年から平成27年にかけての増加の比率を見ると、上越市は県全体よりも増加の割合が高い。

(単位:人泊)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
新潟県	106,533	135,520	262,490	267,020	315,400
上越市	2,110	1,243	3,234	2,656	2,770
県(前年比)	-	127.2%	193.7%	101.7%	118.1%
市(前年比)	-	58.9%	260.2%	82.1%	104.3%



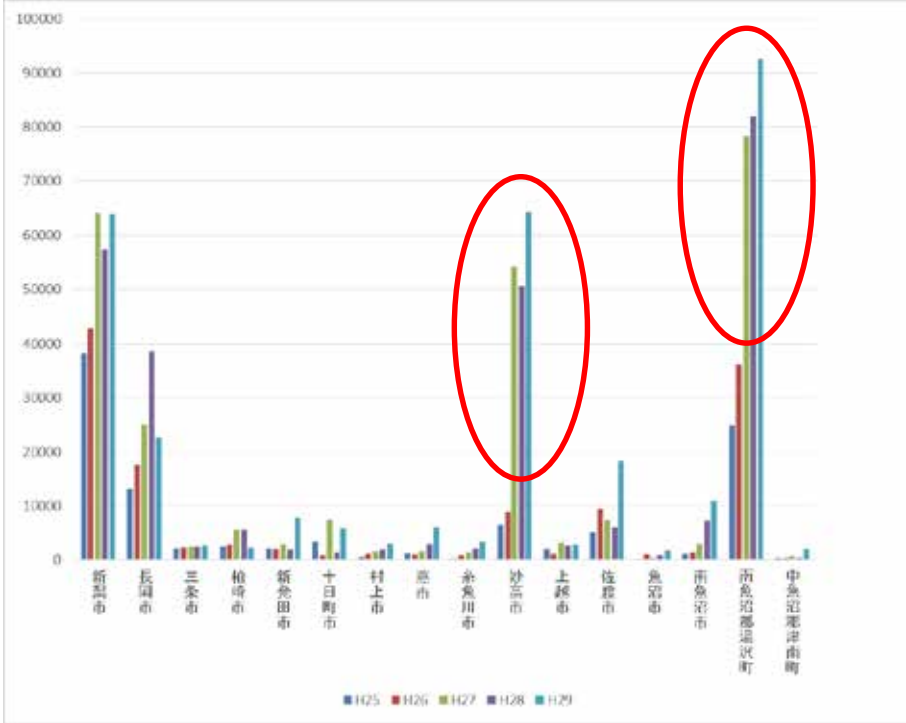
※外国人宿泊者数の県内地区別推計について（新潟県）を元に上越市で作成

5-5 上越市の外国人宿泊者数(県内市町村別 比較)

- 平成29年の外国人宿泊者数を見ると上越市の外国人宿泊数は2,770人泊で、県内の市町村で12番目の多さである。
- 県内で最も多いのは湯沢町で92,568人泊、2番目は妙高市で64,386人泊、3番目は新潟市で63,964人泊、4番目は長岡市で22,607人泊、5番目は佐渡市で18,304人泊である。
- 妙高市、湯沢町の宿泊者数は平成27年に急増しており、その後も増加している。

■市町村別外国人宿泊者数 推移 (単位:人泊)

	H25	H26	H27	H28	H29
新潟市	38224	42882	64169	57366	63964
長岡市	13110	17659	25026	38551	22607
三条市	2191	2352	2542	2544	2687
柏崎市	2502	2748	5589	5580	2352
新発田市	2245	1998	3010	1872	7898
十日町市	3327	901	7574	1476	5919
村上市	648	1225	1686	1931	3140
燕市	1351	1033	1572	2916	6096
糸魚川市	323	882	1420	2262	3456
妙高市	6554	8837	54336	50643	64386
上越市	2110	1243	3234	2656	2770
佐渡市	5149	9478	7382	6080	18304
魚沼市	141	1017	390	884	1713
南魚沼市	1165	1521	2949	7285	11031
南魚沼郡湯沢町	24907	36241	78310	81928	92568
中魚沼郡津南町	370	358	752	379	2094



※外国人宿泊者数の県内地区別推計について（新潟県）を基に上越市で作成

5-6 上越市の訪日外国人宿泊者(地域別)

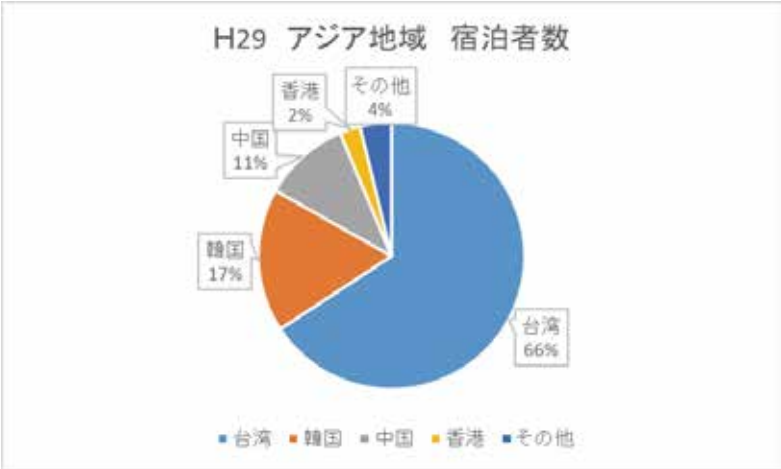
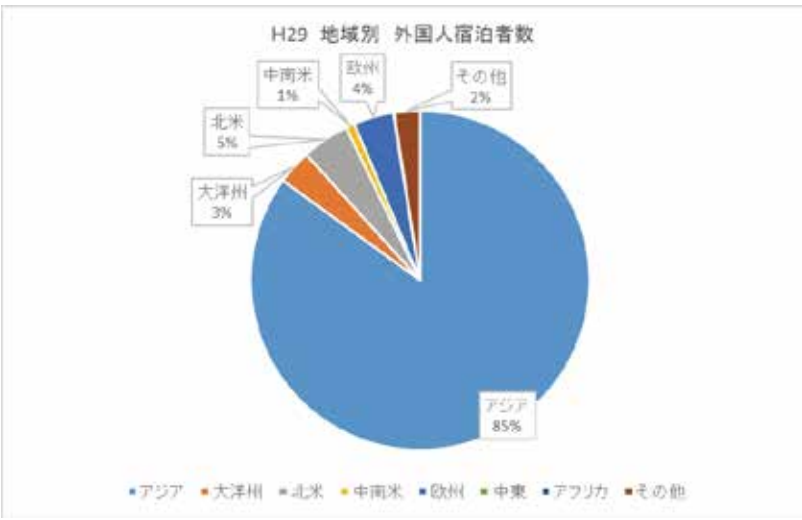
- 上越市の平成28年と平成29年の外国人宿泊者を地域別で見ると、単純比較はできないが、いずれの地域においても宿泊者数は増加した。
- 地域別で見ると、アジアからの来訪が最も多く、全体の8割以上を占めている。
- アジア地域を国や地域別で見ると、台湾が最も多く、全体の6割以上を占めている。次いで韓国、中国の順に多くなっている。

(単位:人泊)

地域	H28	H29	対前年比
アジア	2,599	5,073	195%
大洋州	116	196	169%
北米	130	271	208%
中南米	3	50	1667%
欧州	152	227	149%
中東	0	4	-
アフリカ	2	1	50%
その他	60	147	245%
合計	3,062	5,969	195%

(単位:人泊)

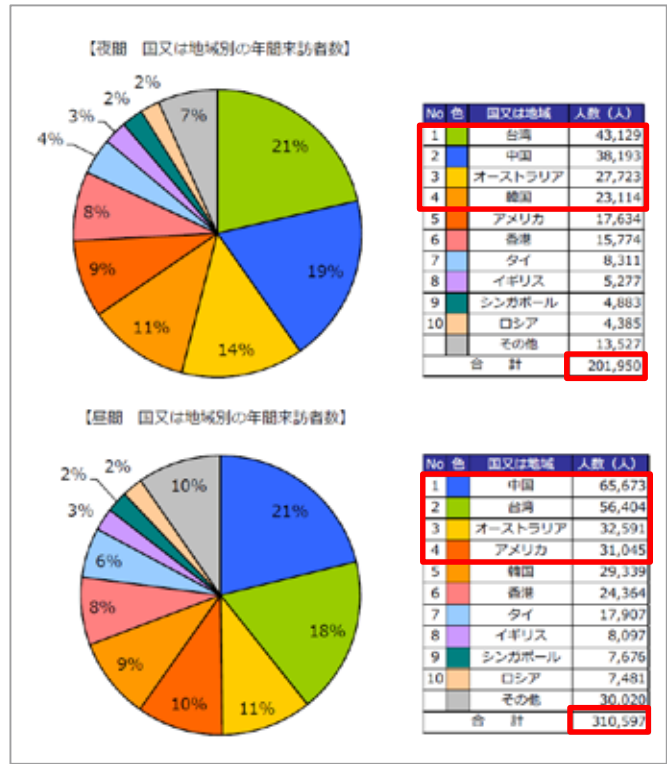
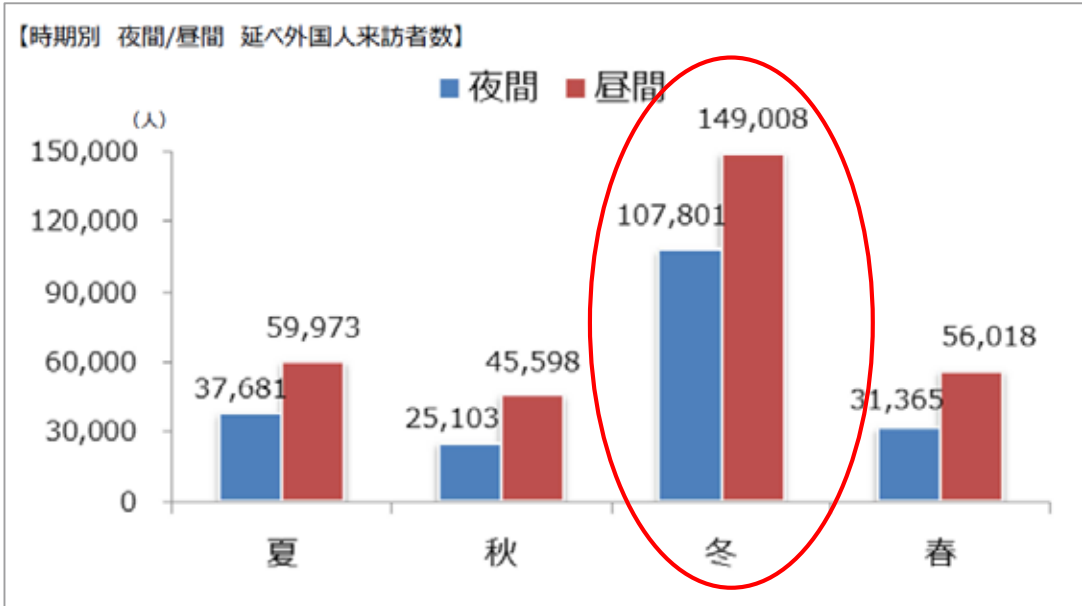
	H28	H29	対前年比
台湾	1749	3336	190.7%
韓国	274	884	322.6%
中国	228	533	233.8%
香港	72	127	176.4%
その他	276	193	69.9%
合計	2599	5073	195.2%



※上越市独自調査を基に作成
※回答施設が異なるため単純比較はできず、あくまで参考。

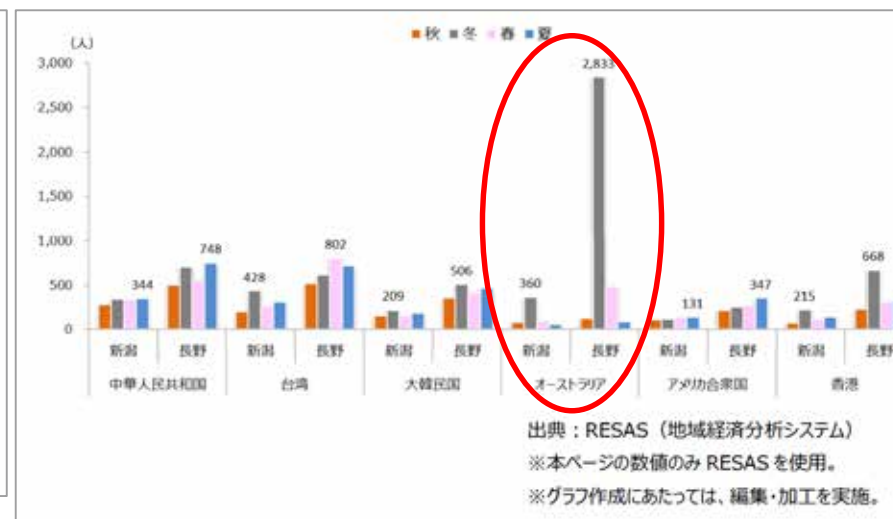
5-7 新潟県の外国人来訪者の動向(時期別 夜間/昼間)

- 時期別に見ると、台湾から「湯沢・魚沼エリア」、オーストラリアから「妙高・上越エリア」への来訪者が多い影響から、夜間、昼間共に冬の来訪が最も多い。
- 国又は地域別で見ると、夜間では台湾、中国、オーストラリア、韓国の順となっており、昼間では中国、台湾、オーストラリア、アメリカの順となっている。
- 夜間滞在者数が約20万人に対して、昼間滞在者数が約31万人となっており、全体の2/3は県内に宿泊していると推測される。



5-8 新潟県の外国人来訪者数(1日あたりの平均来訪者数)

- 2014年から2015年にかけての新潟県の外国人来訪者数の1日あたりの平均来訪者数を近隣県の長野県と比べると、季節や国籍を問わず、多くの外国人が新潟県より長野県に来訪している。
- 冬季の差が特に大きくなり、2月には3.1倍にまで拡大している。
- 両県にとって来訪者数が多い、6つの国や地域からの来訪者数においても、全ての国又は地域で長野県への来訪者数が上回っている。特に冬のオーストラリアからの来訪者数において、差が大きい

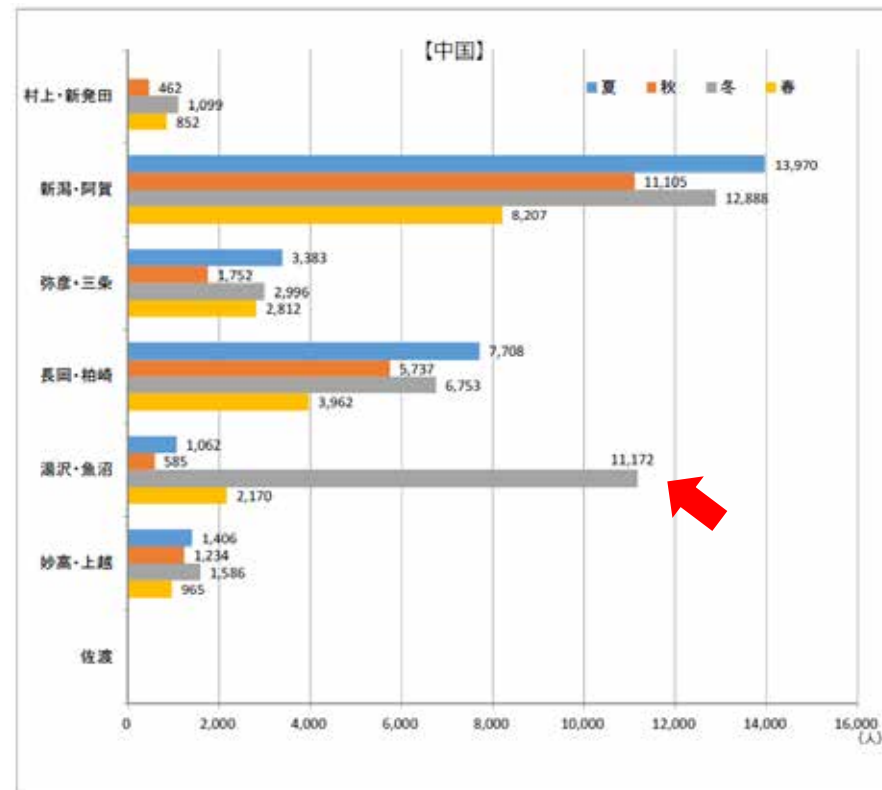
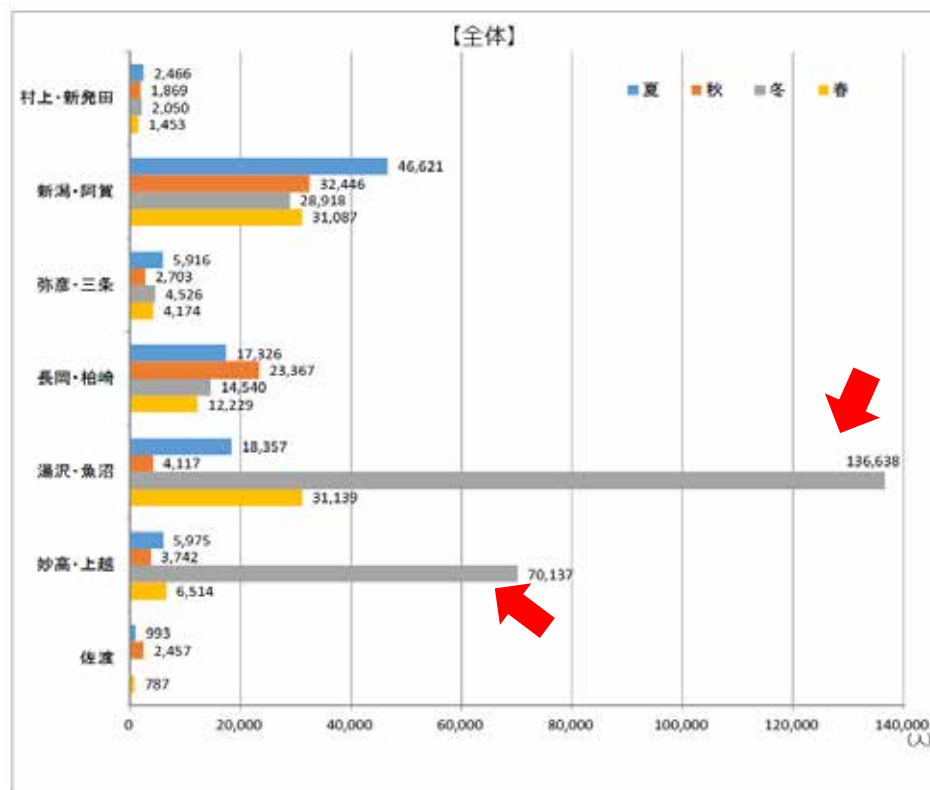


出典：ビッグデータを活用した交流人口動向分析2016（新潟県）

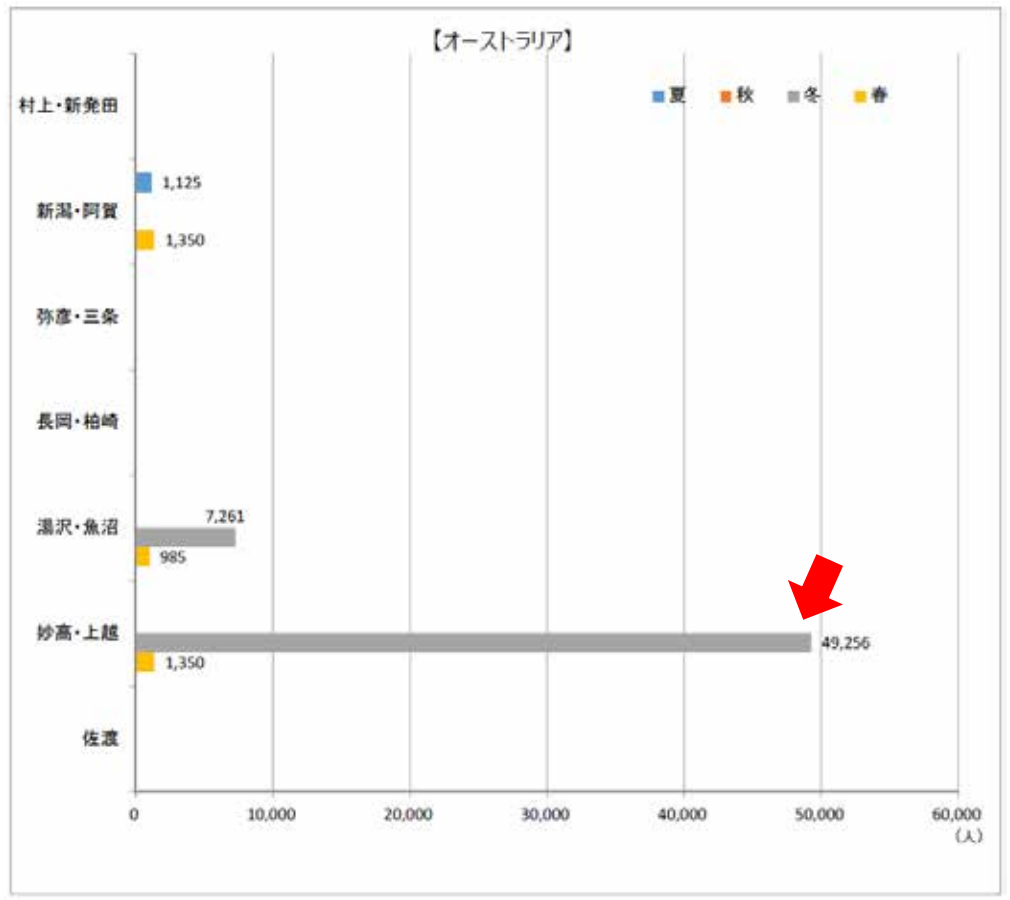
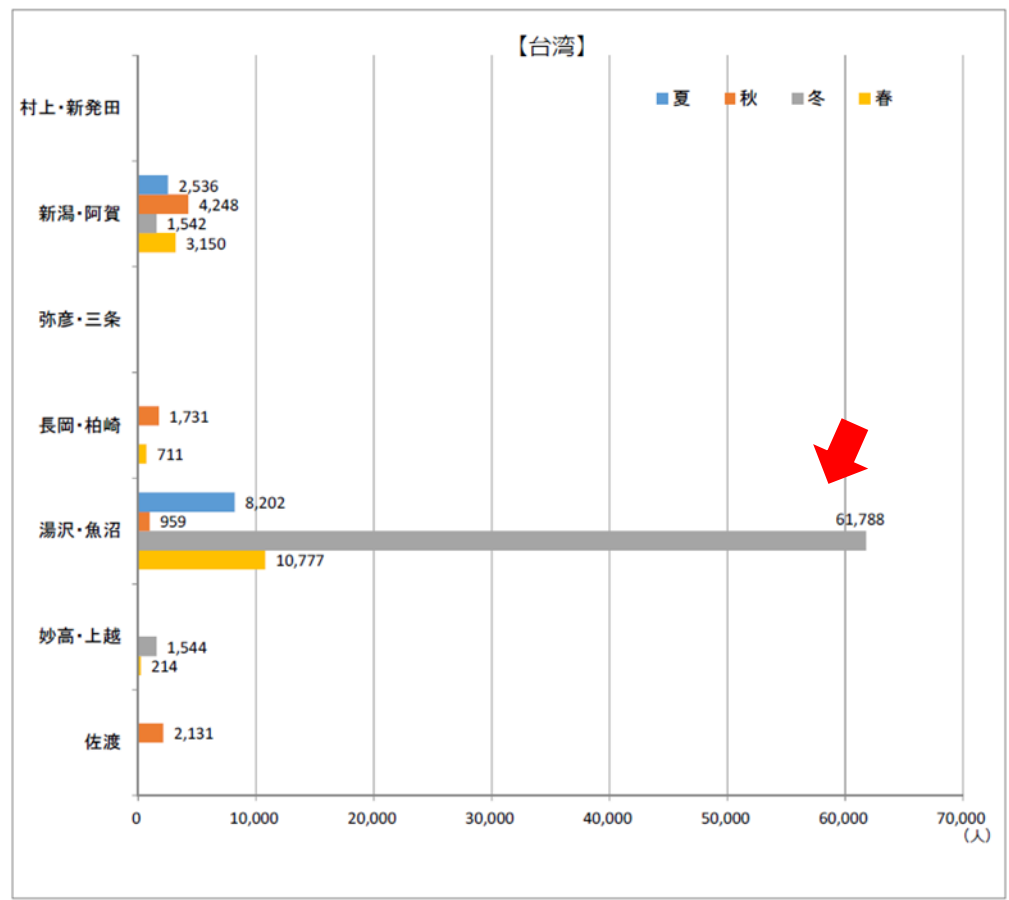
5-9 新潟県のエリア別外国人来訪者の状況①

- 訪日外国人来訪者数を新潟県のエリア別で見ると、最も来訪者が多いのは「湯沢・魚沼エリア」であり、次いで「新潟・阿賀エリア」、「妙高・上越エリア」の順に多い。
- 季節ごとの数を見ると、「湯沢・魚沼エリア」、「妙高・上越エリア」が特に冬の来訪が多く、一方、他のエリアでは、比較的に夏、秋の来訪が多く、冬は落ち込む傾向にある。
- 冬の来訪者を国又は地域別で見ると、「妙高・上越エリア」へはオーストラリアが最も多く、次いで韓国、アメリカが多い。
- 一方、「湯沢・魚沼エリア」では台湾が最も多く、次いで中国、韓国の順に多い。

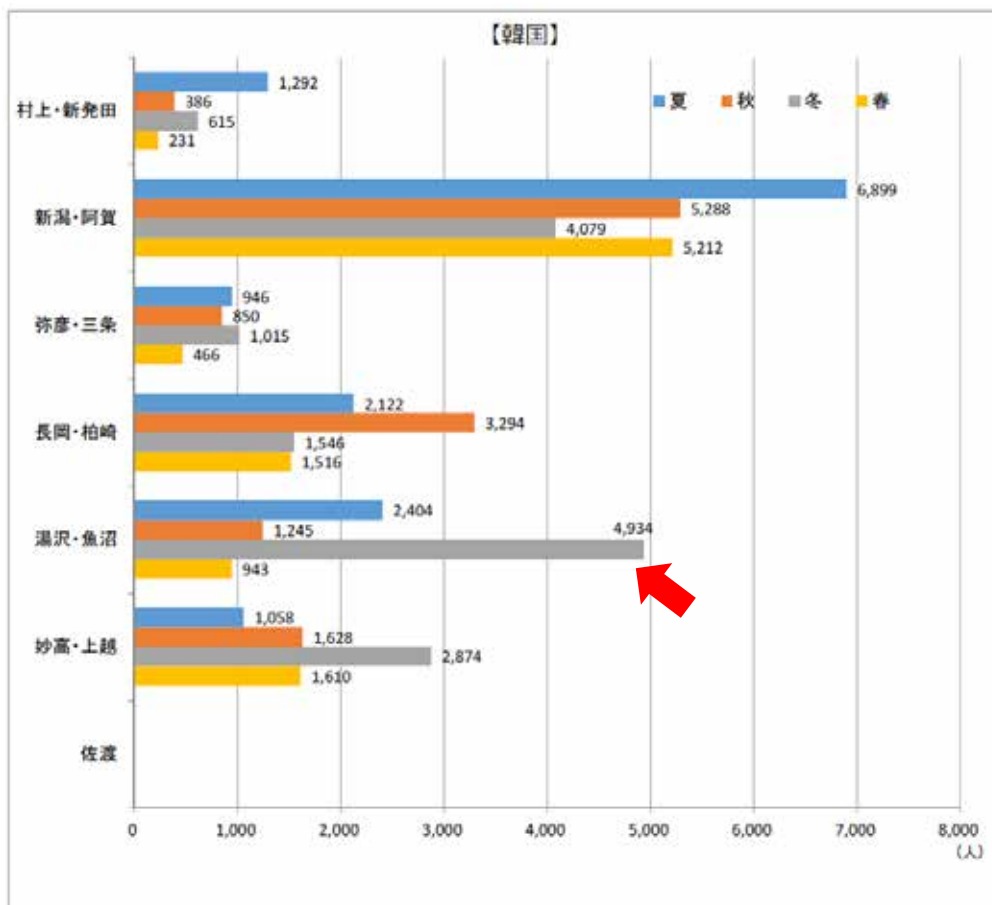
■ 県内エリア別の外国人来訪者数



5-9 新潟県のエリア別外国人来訪者の状況②



5-9 新潟県のエリア別外国人来訪者の状況③



出典：ビッグデータを活用した交流人口動向分析2016（新潟県）

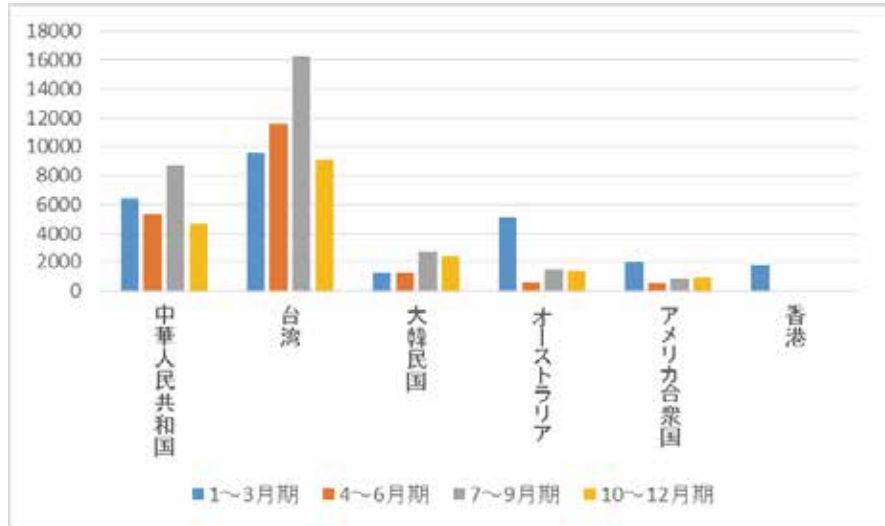
5-10 新潟県の外国人来訪者数(目的別)①

- 新潟県の外国人来訪者の内、2017年の観光・レジャー目的の来訪者数を見ると、台湾からの来訪者が最も多く49,596人、次いで中国からの来訪者25,034人の順に多く訪れている。
- 中国、台湾、韓国からの来訪は、7～9月期が最も多く、オーストラリア、アメリカ、香港からの来訪は、1～3月期の来訪が多くなっている。
- 台湾からの来訪者の8割が観光・レジャー目的であり、また、前年と比較すると来訪者数は2倍以上増加した。

■観光・レジャー目的 外国人来訪者 2017年

(単位:人)

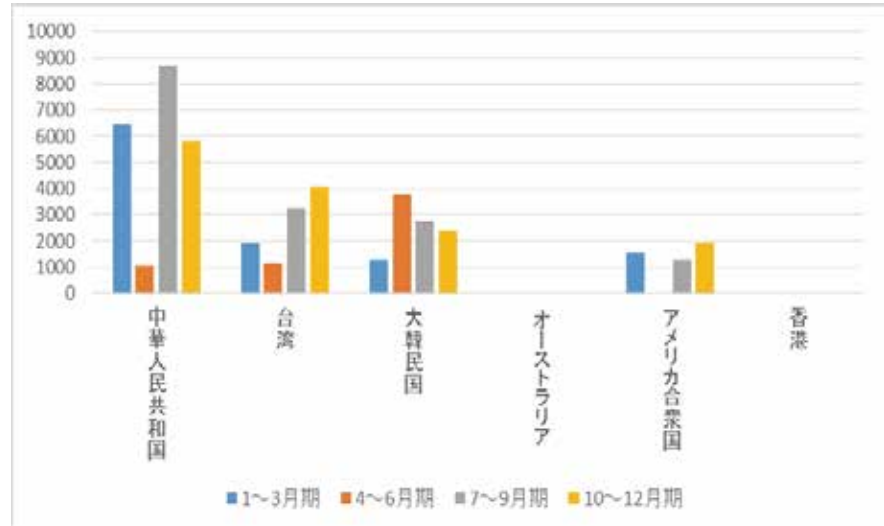
	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	合計
中華人民共和国	6427	5261	8698	4648	25034
台湾	9597	11594	16266	9139	46596
大韓民国	1290	1266	2746	2399	7701
オーストラリア	5115	619	1510	1453	8697
アメリカ合衆国	1959	535	852	965	4311
香港	1810	0	0	0	1810



■観光・レジャー目的以外 外国人来訪者 2017年

(単位:人)

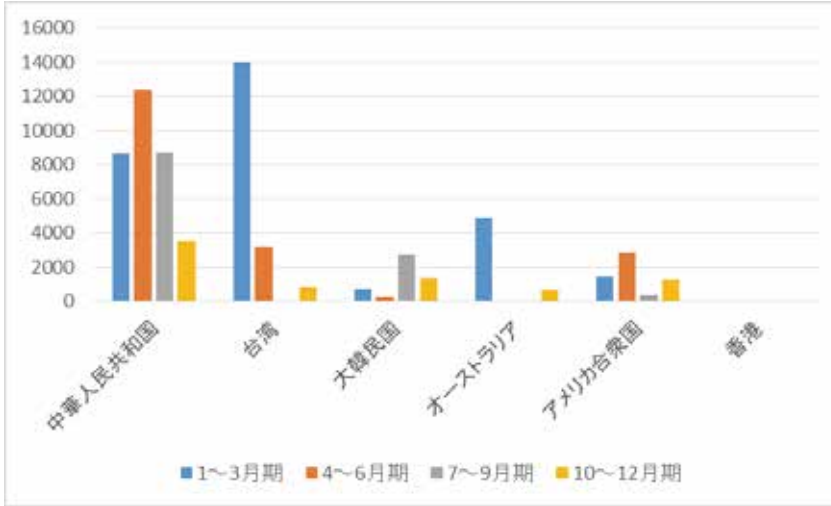
	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	合計
中華人民共和国	6428	1052	8698	5810	21988
台湾	1919	1159	3253	4062	10393
大韓民国	1290	3798	2747	2400	10235
オーストラリア	0	0	0	0	0
アメリカ合衆国	1567	0	1277	1930	4774
香港	0	0	0	0	0



■ (参考) 観光・レジャー目的 外国人来訪者 2016年

(単位:人)

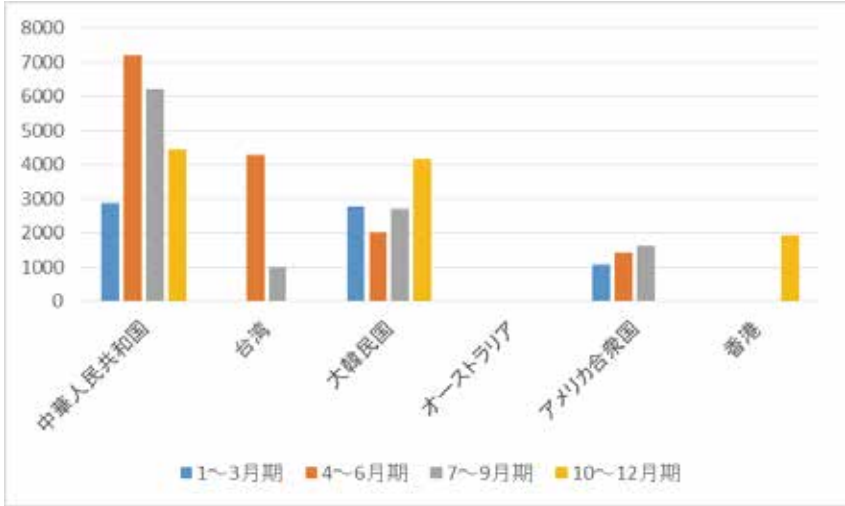
	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	合計
中華人民共和国	8631	12357	8691	3554	33233
台湾	13995	3206	0	867	18068
大韓民国	695	253	2706	1391	5045
オーストラリア	4900	0	0	658	5558
アメリカ合衆国	1412	2842	408	1320	5982
香港	0	0	0	0	0



■ (参考) 観光・レジャー目的以外 外国人来訪者 2016年

(単位:人)

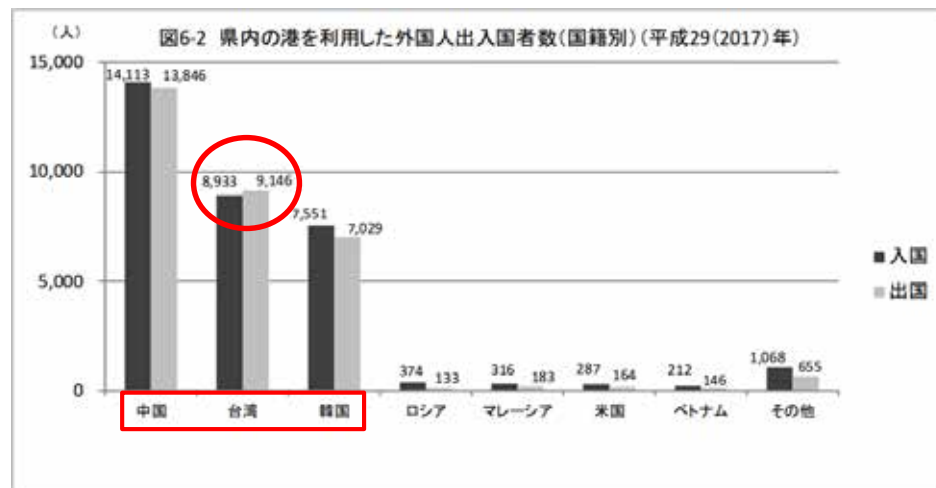
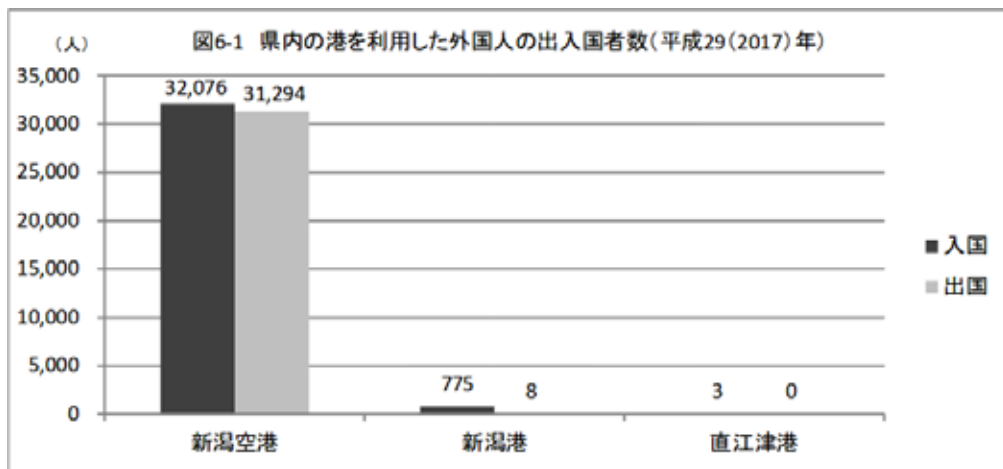
	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	合計
中華人民共和国	2877	7209	6208	4442	20736
台湾	0	4275	1010	0	5285
大韓民国	2782	2020	2706	4172	11680
オーストラリア	0	0	0	0	0
アメリカ合衆国	1058	1421	1633	0	4112
香港				1938	1938



※地域経済分析システム「RESAS」を基に上越市で作成

5-11 外国人来訪者の新潟空港の利用状況

- 平成29（2017）年に県内の港及び空港を利用して入国した外国人の総数は、32,854人で前年比13.4%増加し、出国した外国人の総数は31,302人で前年比8.1%増加した。
- 全国的には、平成29（2017）年の入国者は27,428,782人で前年比18.1%増加し、出国者は27,175,752人で18.1%増加した。
- 国籍別の入出国数を見ると、中国が最も多く、次いで台湾、韓国の順に多い。
- 中国、韓国はわずかに入国が上回っているが、台湾は入国数より出国数の方がわずかに多い。



出典：平成30（2018）年度 国際交流概要（資料編6）人の動き（新潟県）

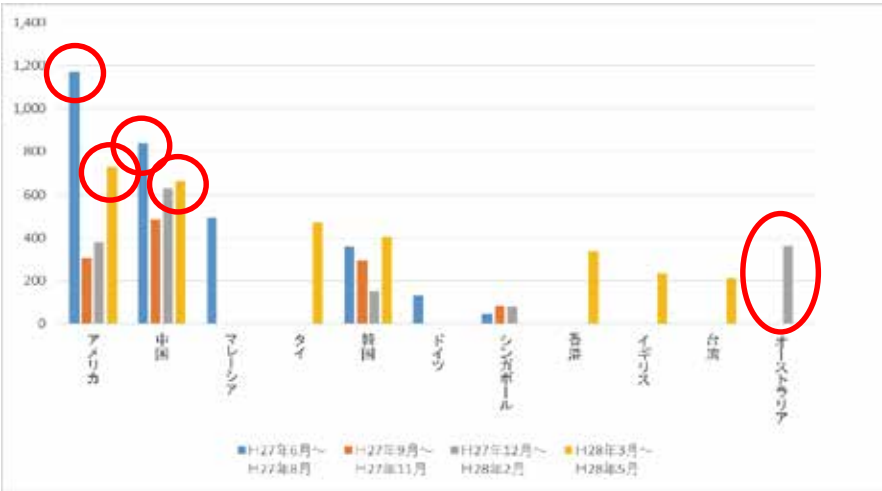
5-12 上越市の外国人来訪者の動向

- 平成27年6月～平成28年5月までの上越市への外国人来訪者数を国又は地域別で見ると、中国からの来訪者が最も多く、次いでアメリカ、韓国からの順が多い。また、中国、アメリカの来訪者は全体の約6割を占めている。
- 3か月ごとの入込で見ると、平成27年6～8月及び平成28年3～5月の来訪が多く、平成27年9月～11月及び平成27年12月～平成28年2月の入込が落ち込む傾向にある。
- 一方、オーストラリアからの来訪者は、平成27年12月～平成28年2月のみであり、その他の月の来訪はなかった。

■ 国または地域別来訪者数

(単位: 人)

国または地域	H27年6月～ H27年8月	H27年9月～ H27年11月	H27年12月～ H28年2月	H28年3月～ H28年5月	合計
アメリカ	1,170	306	381	729	2,586
中国	839	482	629	664	2,614
マレーシア	492	0	0	0	492
タイ	0	0	0	471	471
韓国	357	296	151	406	1,210
ドイツ	131	0	0	0	131
シンガポール	44	84	81	0	209
香港	0	0	0	338	338
イギリス	0	0	0	233	233
台湾	0	0	0	214	214
オーストラリア	0	0	363	0	363
総計	3,033	1,168	1,605	3,055	8,861



○訪日外国人宿泊者の状況

- ・外国人宿泊者数は平成27年から急激に伸びており、年々増加している。【P44、P47】
- ・市町村別では湯沢町が最も多く、次いで妙高市、新潟市の順に多く、上越市は12番目に多い。【P48】

○訪日外国人宿泊者の国籍・地域別の状況

- ・新潟県の外国人宿泊者を国籍・地域別で見ると東アジア地域が最も多く、全体の約半数を占めており、中でも台湾の宿泊者が最も多い。【P45、P46】
- ・上越地区では他の地区に比べオーストラリアが多い。【P46】
- ・上越市の外国人宿泊者数を地域別で見ると、アジア地域が最も多く全体の8割以上を占めており、中でも台湾が多い。【P49】

○外国人来訪者の状況

- ・時期別に見ると、冬の来訪が最も多くなっている。【P50】
- ・エリア別で見ると、最も来訪者が多いのは「湯沢・魚沼エリア」であり、次いで「新潟・阿賀エリア」、「妙高・上越エリア」の順に多い【P52】
- ・特に「湯沢・魚沼エリア」、「妙高・上越エリア」の冬の来訪が多い。【P52】

○訪日外国人来訪者の国籍別・地域別の状況

- ・台湾、中国、韓国等東アジア地域からの来訪が多い傾向が見られる。【P50、P52】
- ・冬の来訪者を国籍別又は地域別で見ると、「妙高・上越エリア」へはオーストラリアが最も多く、次いで韓国、アメリカが多い。【P52】
- ・2016年の上越市への来訪者を見ると中国、アメリカ、韓国からの順で多い。【P58】

- 新潟県内への外国人来訪者は年々増加しており、特に台湾、中国、韓国等の東アジア地域からの来訪が多い。また、冬の季節の来訪が多い状況である。
- 「妙高・上越エリア」へは冬に多くのオーストラリアからの来訪者が訪れている。
- 上越市へは台湾、中国、韓国からの来訪者が比較的多い傾向にある。